

女性IVR医アンケート結果報告と CIRSEアンケート結果との比較

第49回日本IVR学会総会(神戸)

特別企画1「働きやすい職場にするために

ーダイバーシティWG が行った女性IVR 医アンケート
報告と提言」より

日本IVR学会ダイバーシティWG

丸野美由希、三村秀文、曾根美雪、ウッドハムス玲子
鈴木ありさ、高瀬圭、竹口友有子、中塚豊真

1. 背景・目的

IVRは、画像を用いて精確かつ低侵襲に種々の診断・治療を施行できることから、医療のあらゆるプロセスにおいて用いられ需要が増加しているが、現時点のIVR医数は十分ではなく、ニーズに対応できていない。2018年度の日本IVR学会会員総数2736名中、女性医は302名（11%）であり、女性IVR医の増加は喫緊の課題である。そこで、女性IVR医の現状の把握ならびにIVR志望の女性医増加に必要な因子の検討を目的としてアンケート調査を実施した。

2. 対象

IVR学会会員の女性医師（304名）

3. 調査設計

- 3-1. 女性IVR医の仕事とキャリア形成の現状
- 3-2. 女性IVR医の障壁とアドバンテージ
- 3-3. 回答者の背景因子
- 3-4. 学会への要望

4. 調査方法

IVR学会より女性IVR学会会員にアンケート調査実施の通知と依頼をメールにて案内し、web上でアンケートを回収した。

アンケート調査項目は、CIRSE（欧州IVR学会）が行った女性IVR医に対するアンケート調査*の項目に、日本IVR学会独自の調査項目を加えて行った。

5. 調査期間

2019年12月26日~2020年2月8日

6. 回答状況

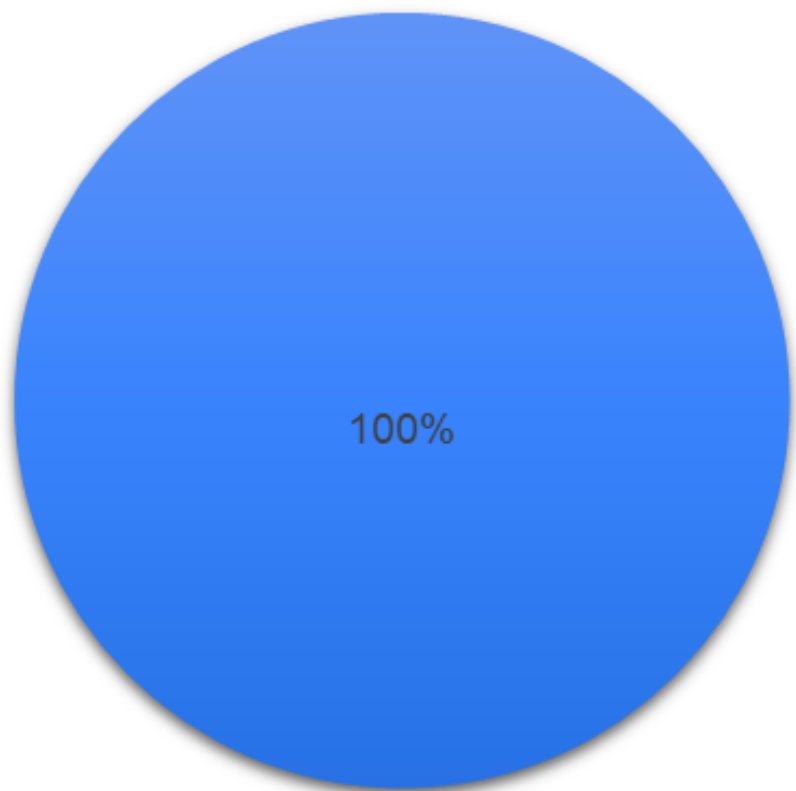
回答件数 63件（20.7%）

* Wah TM, Belli AM. Cardiovasc Intervent Radiol 2018; 41: 1241-1253

7. 結果

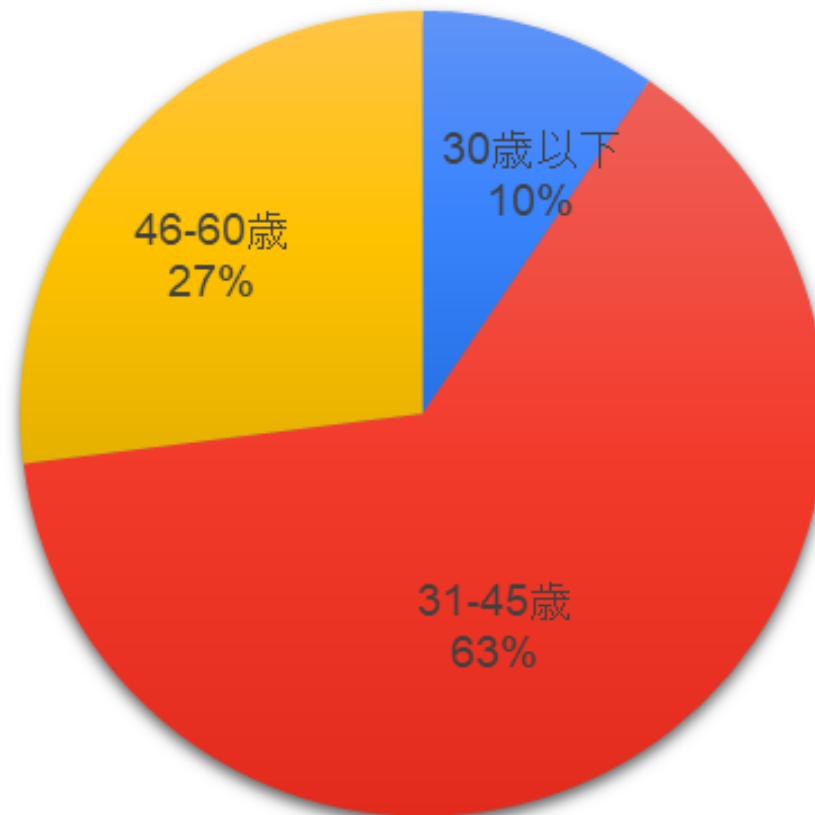
7-1. 回答者の背景因子

1. 現在、勤務する国



■ 日本

2. 年齢



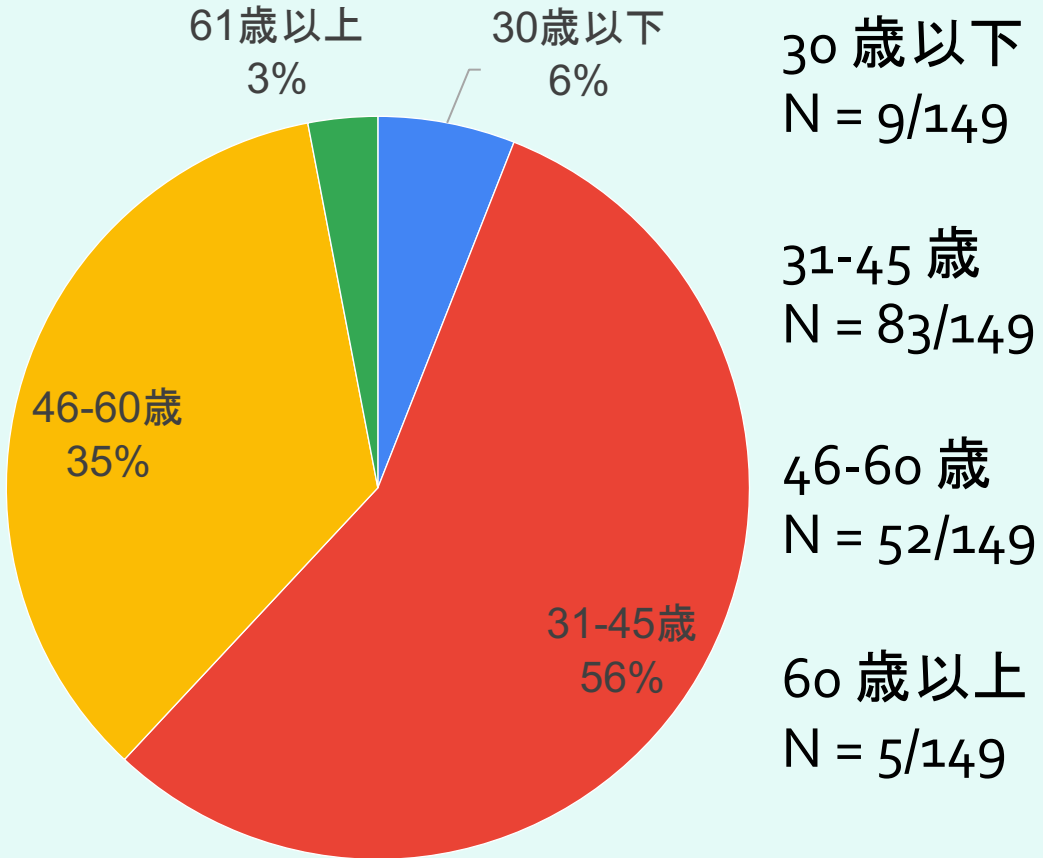
30歳以下
N = 6/63

31-45歳
N = 40/63

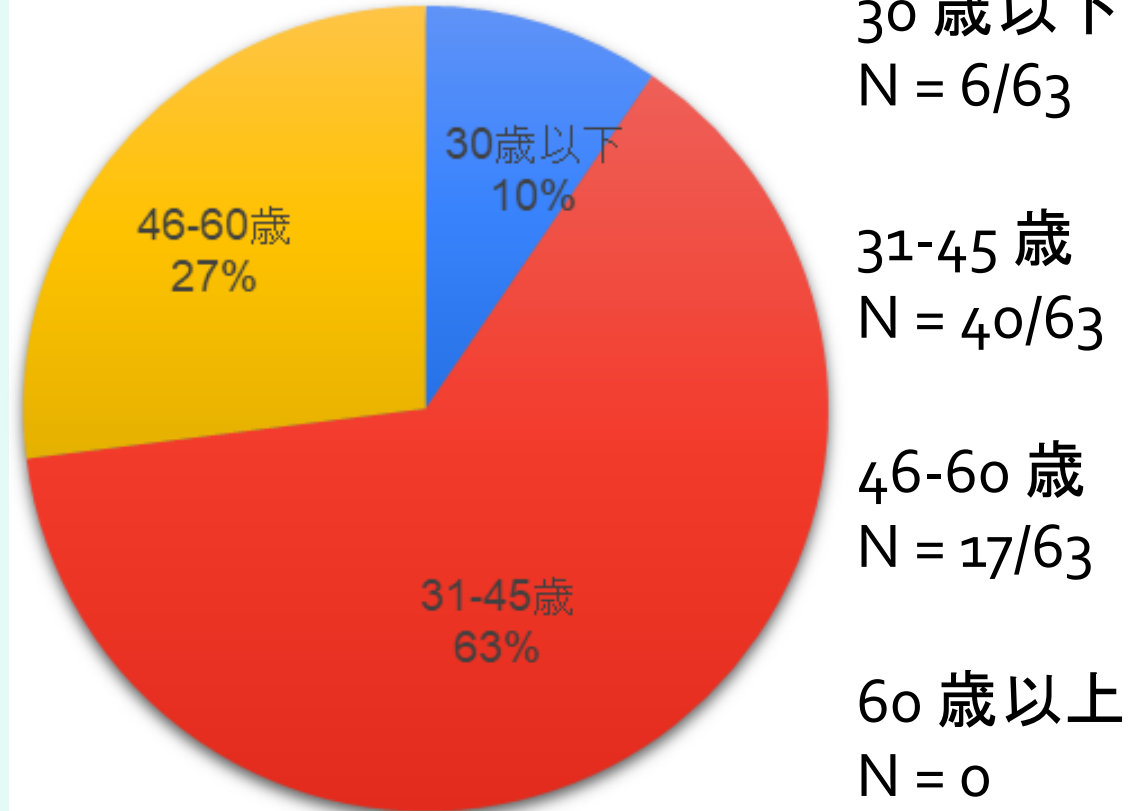
46-60歳
N = 17/63

60歳以上
N = 0

CIRSE : age group

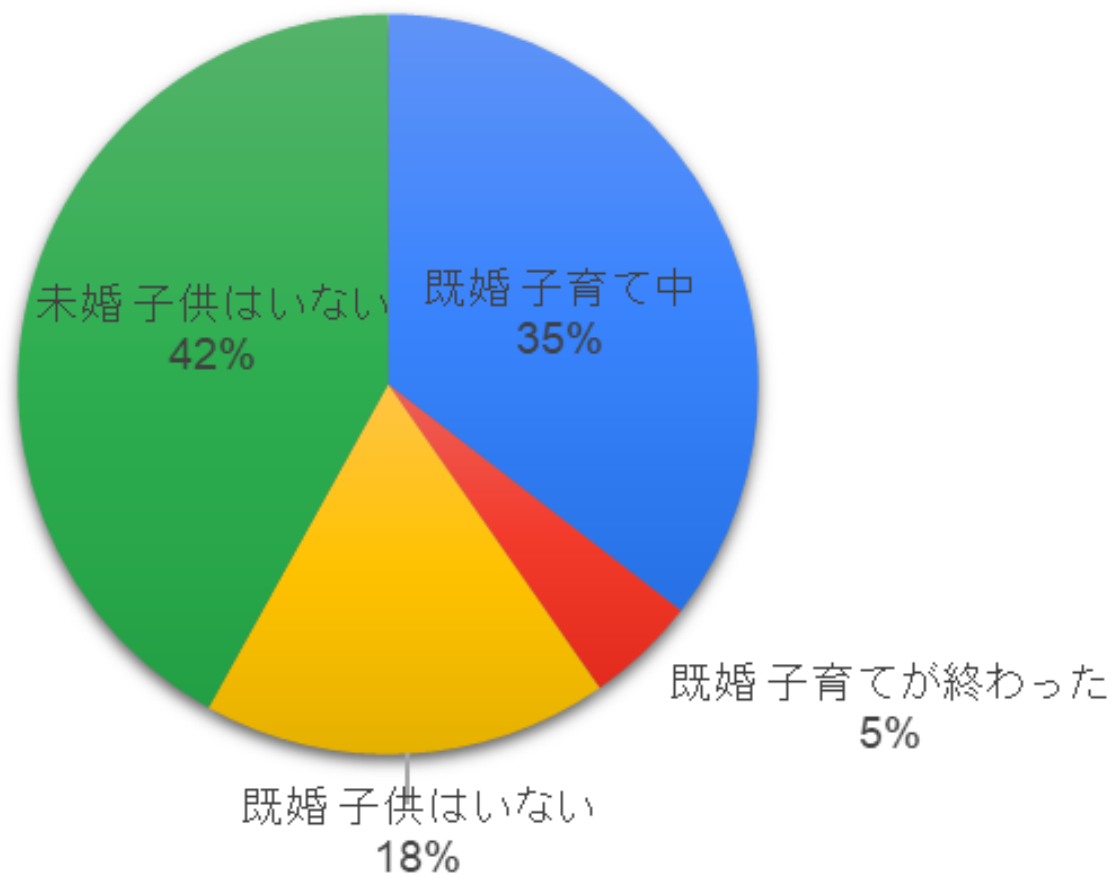


2. 年齡



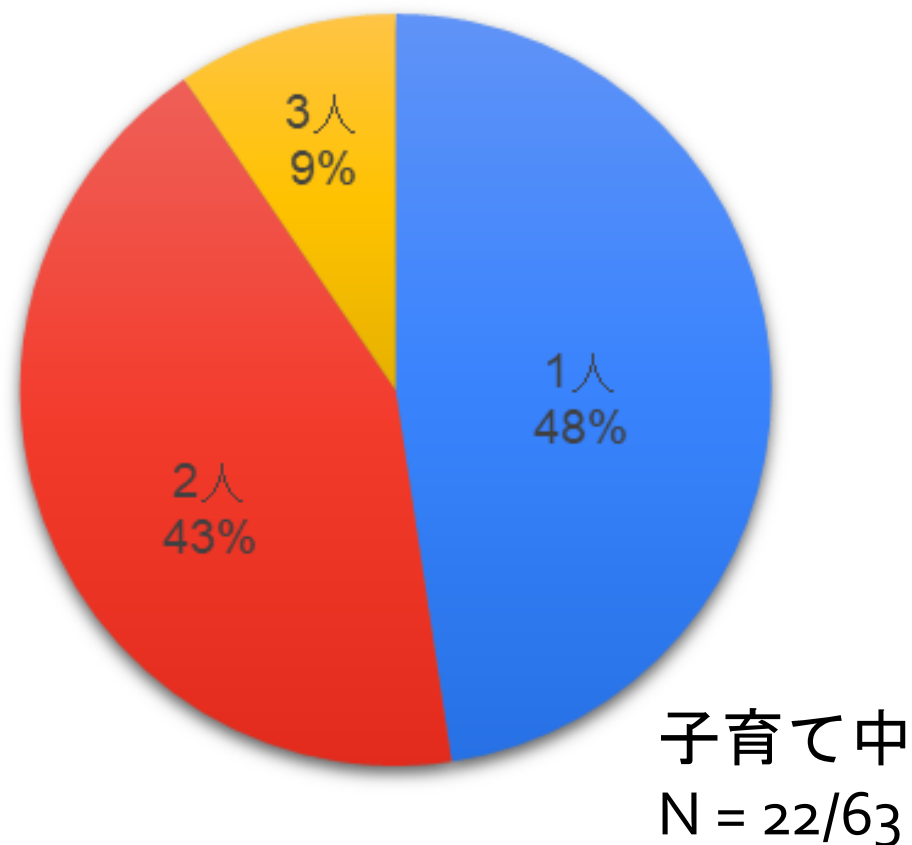
3-1.

結婚と子育てについて

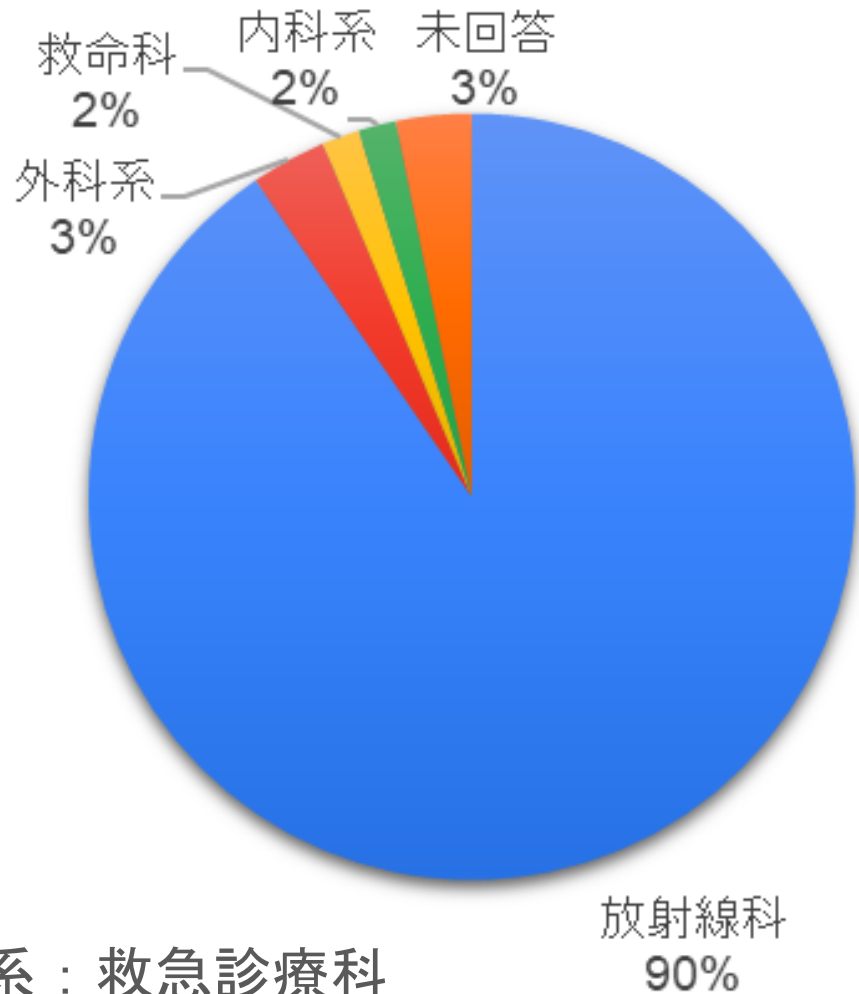


3-2.

「子育て中」の場合、子供の人数

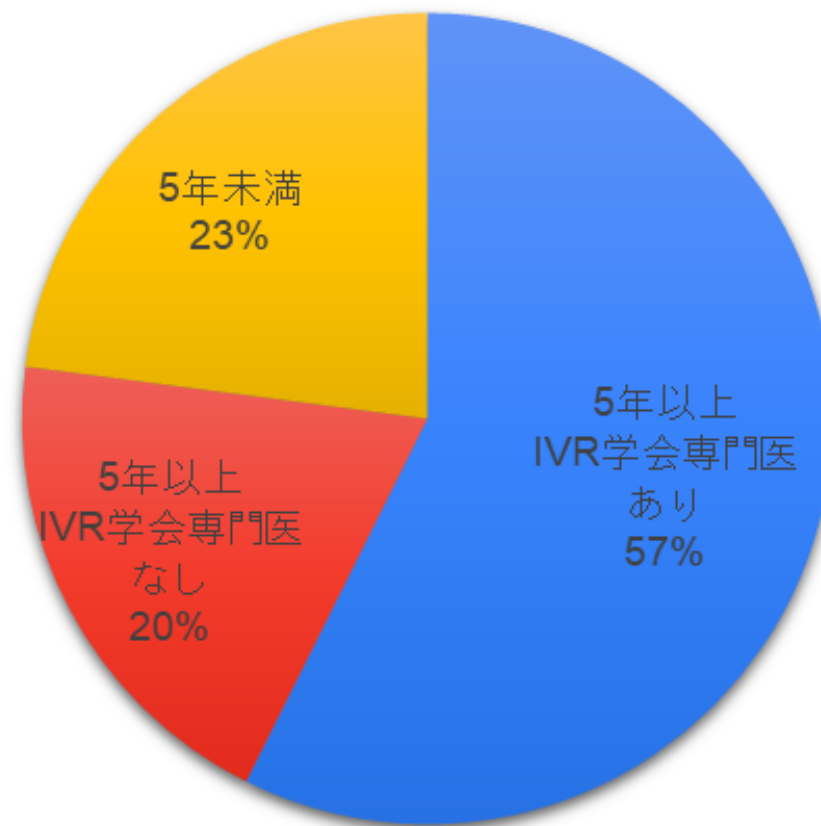


4. 主な所属科

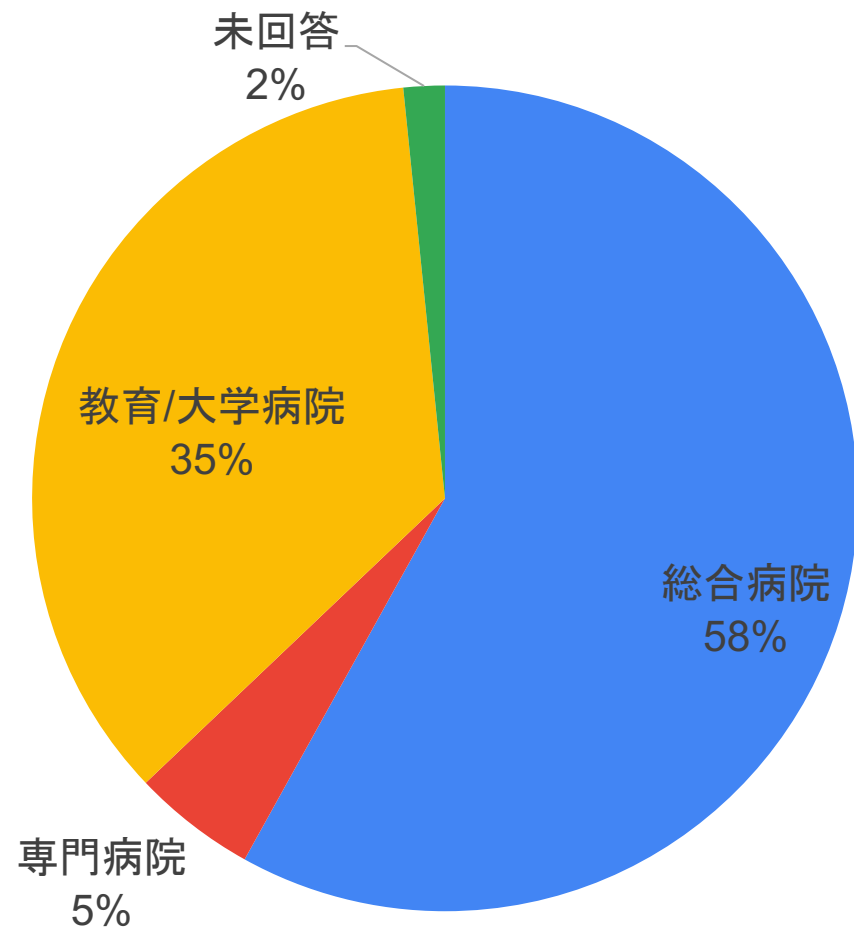


外科系：救急診療科
内科系：呼吸器内科

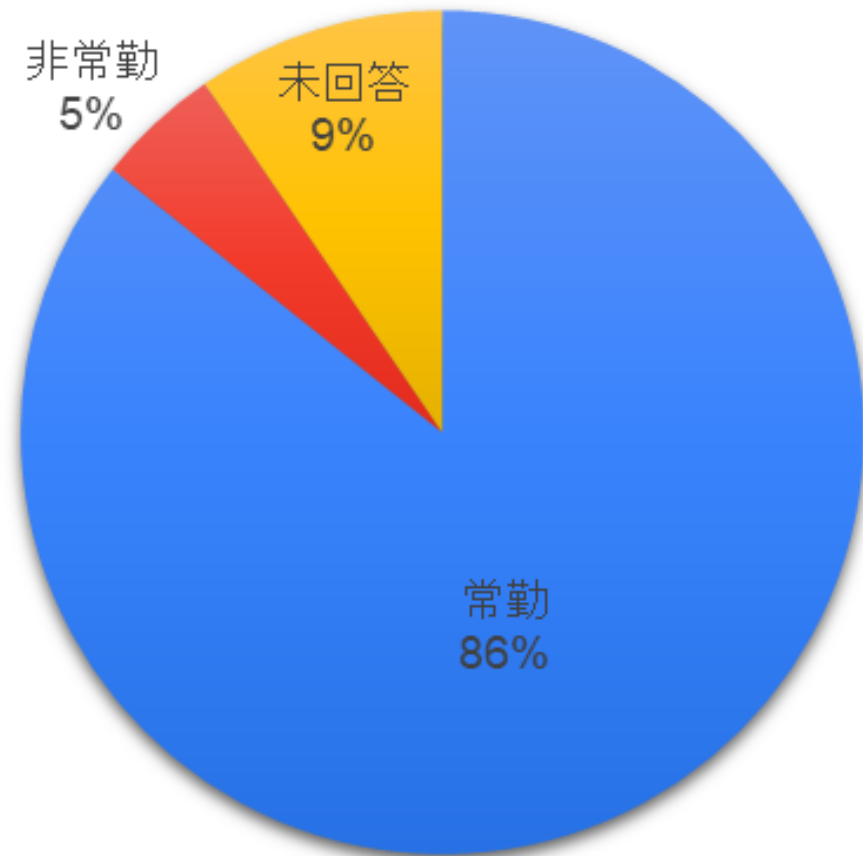
5. IVR経験年数



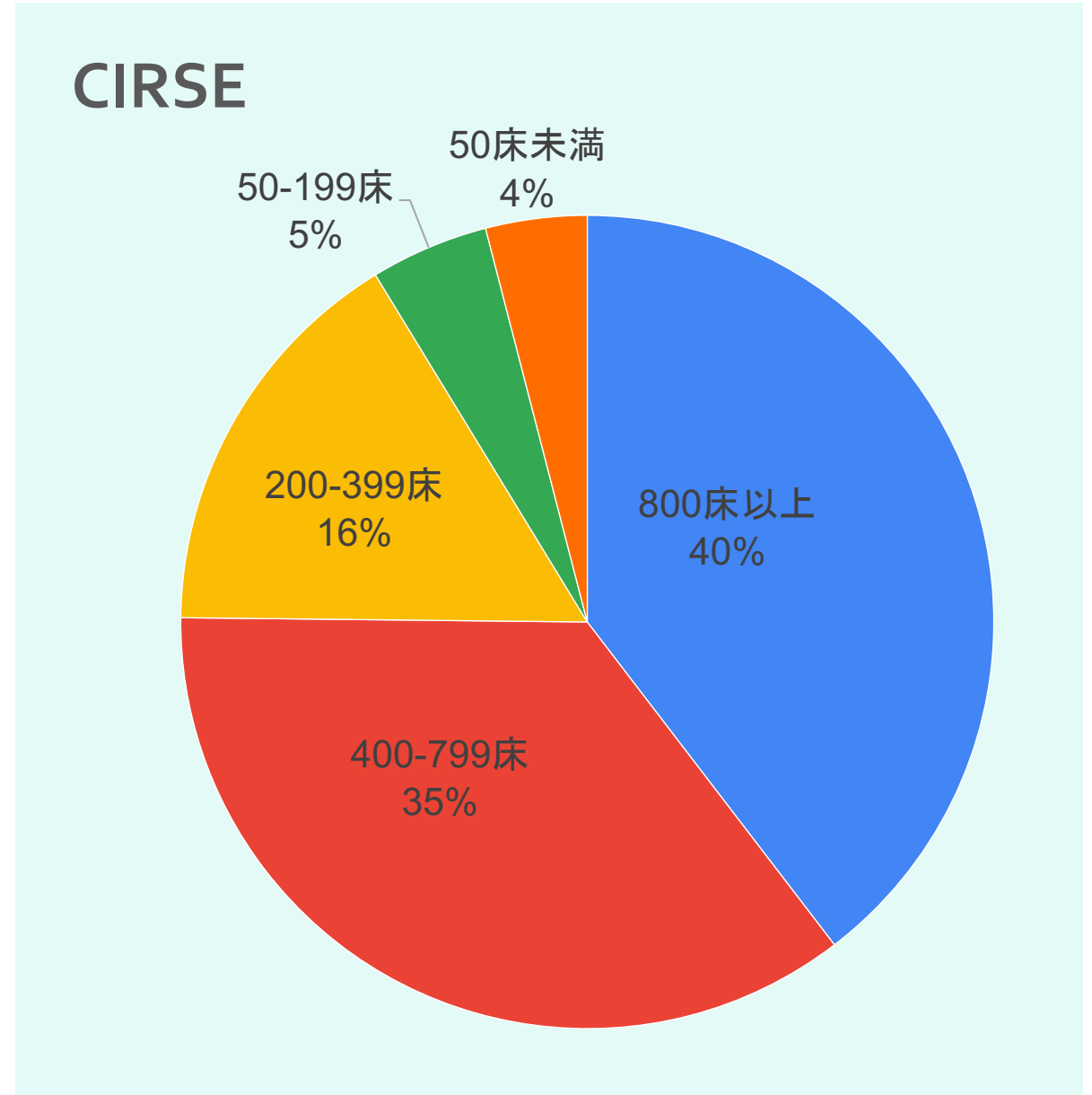
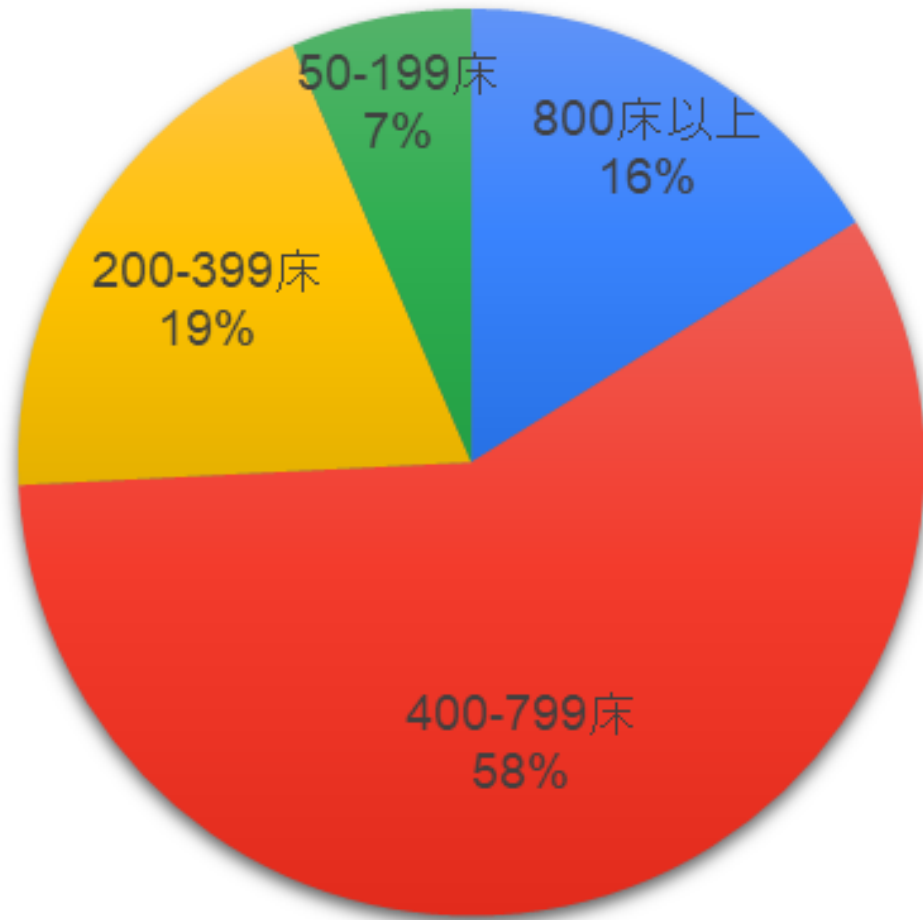
6. 勤務先の病院の種類



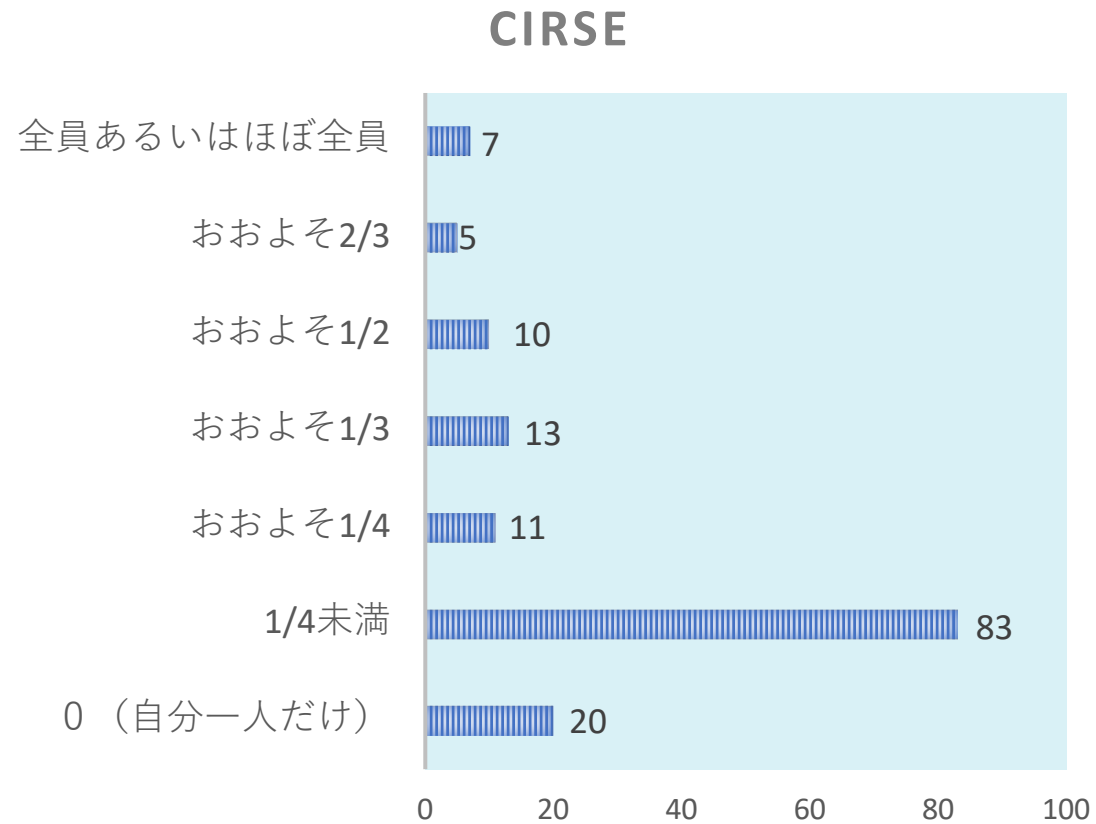
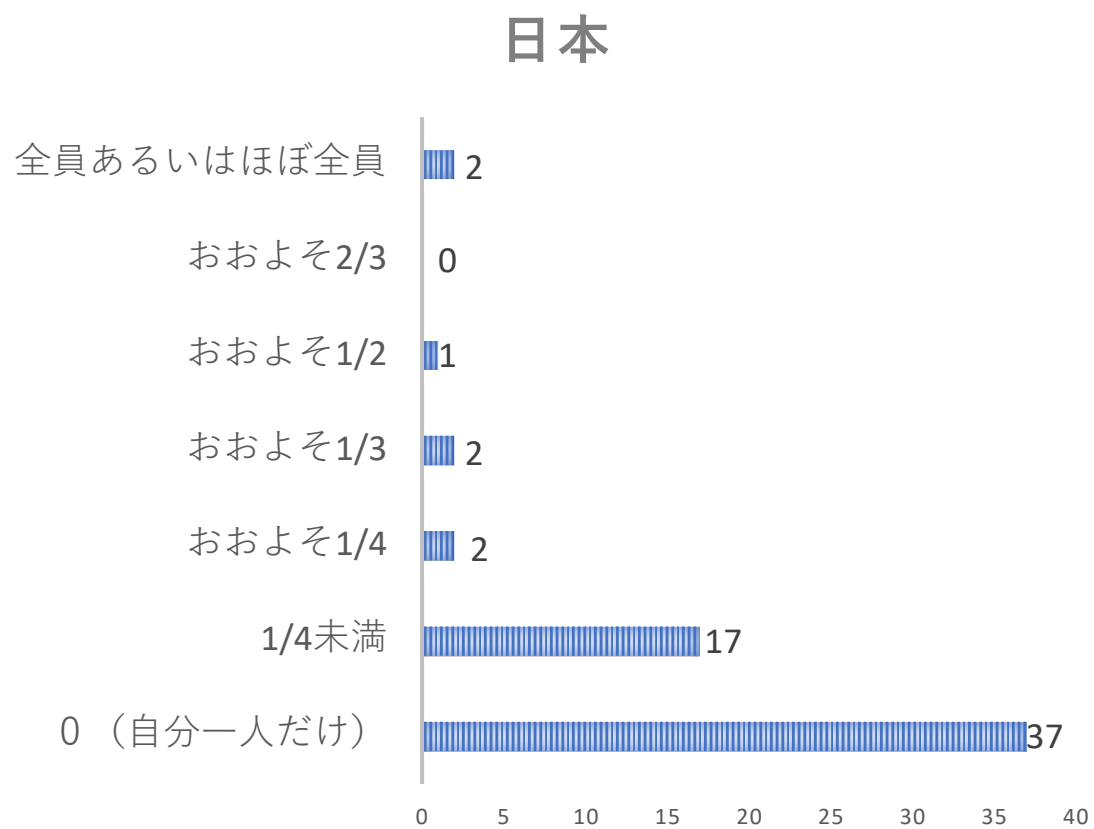
7. 現在の勤務形態



8. 勤務先の病床数

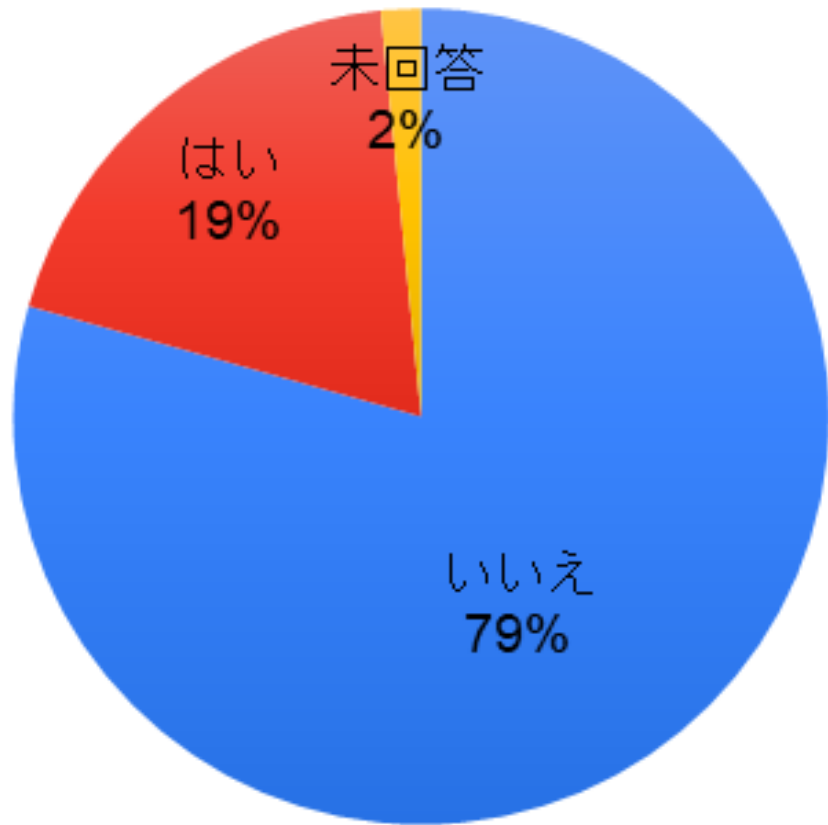


9. 同僚でIVR手技を施行する女性の割合



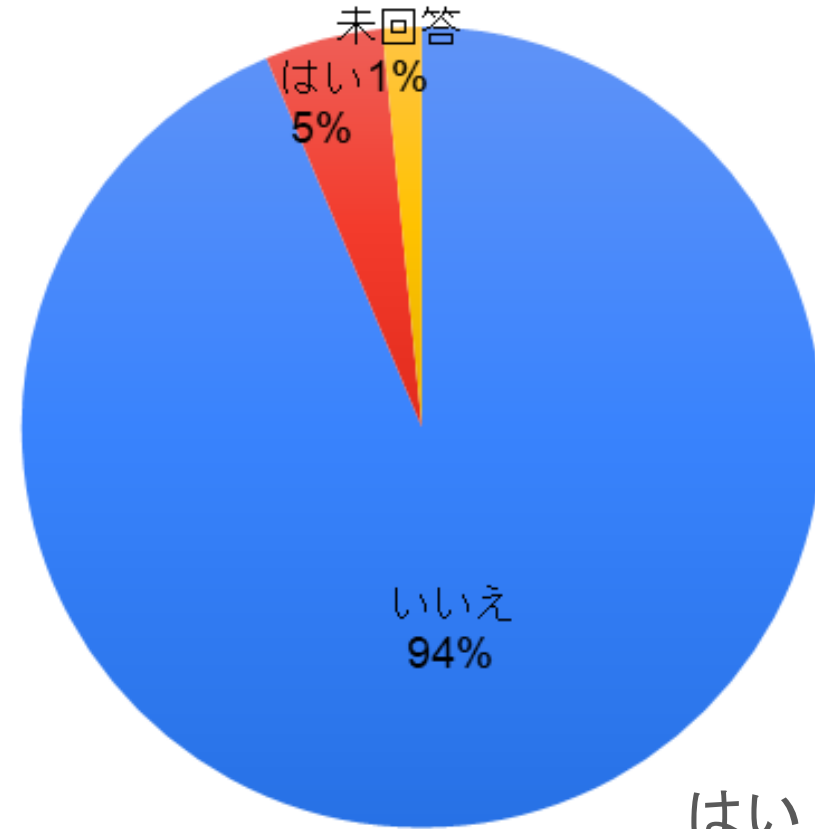
10.

現在、管理職に就いているか



11.

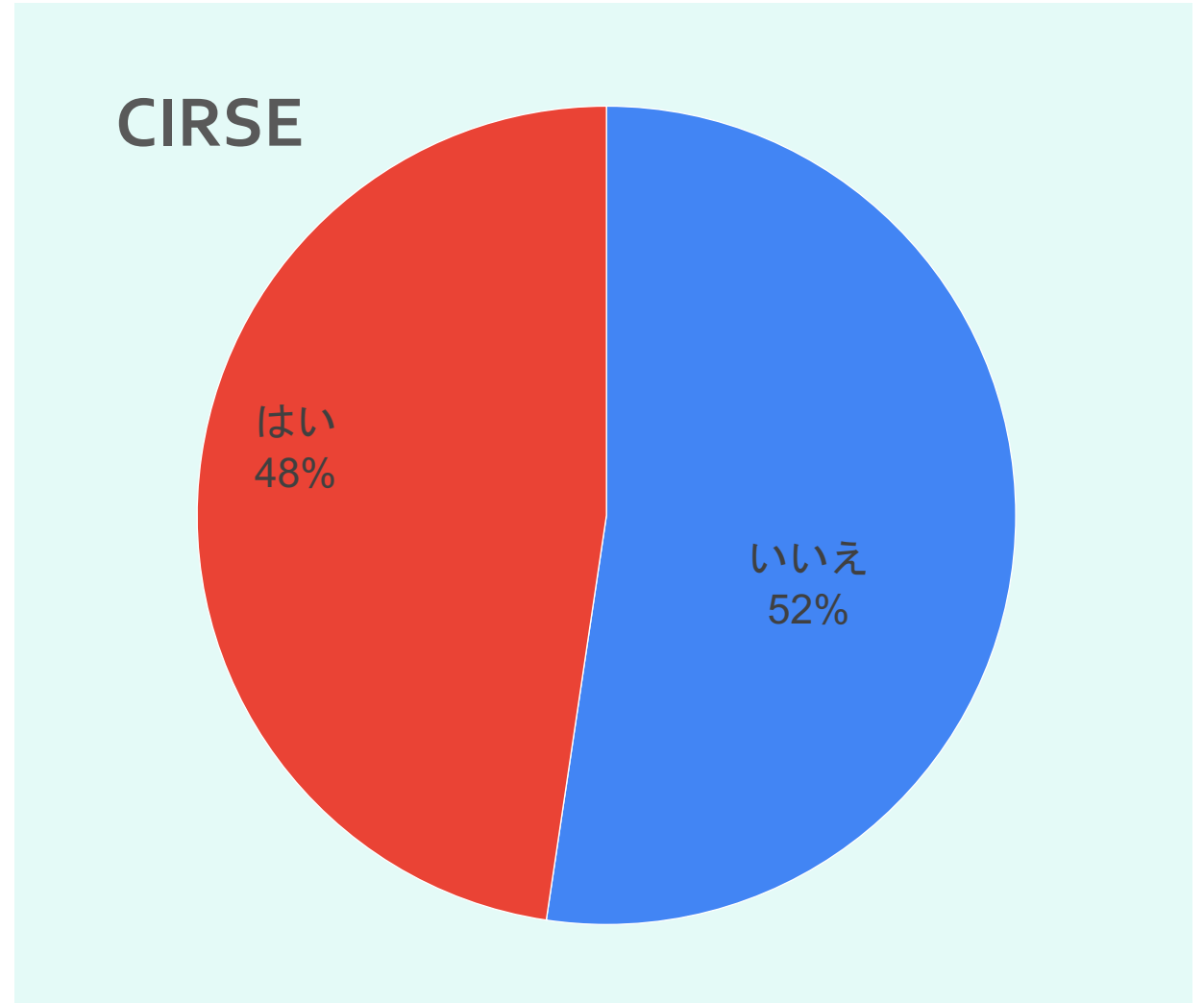
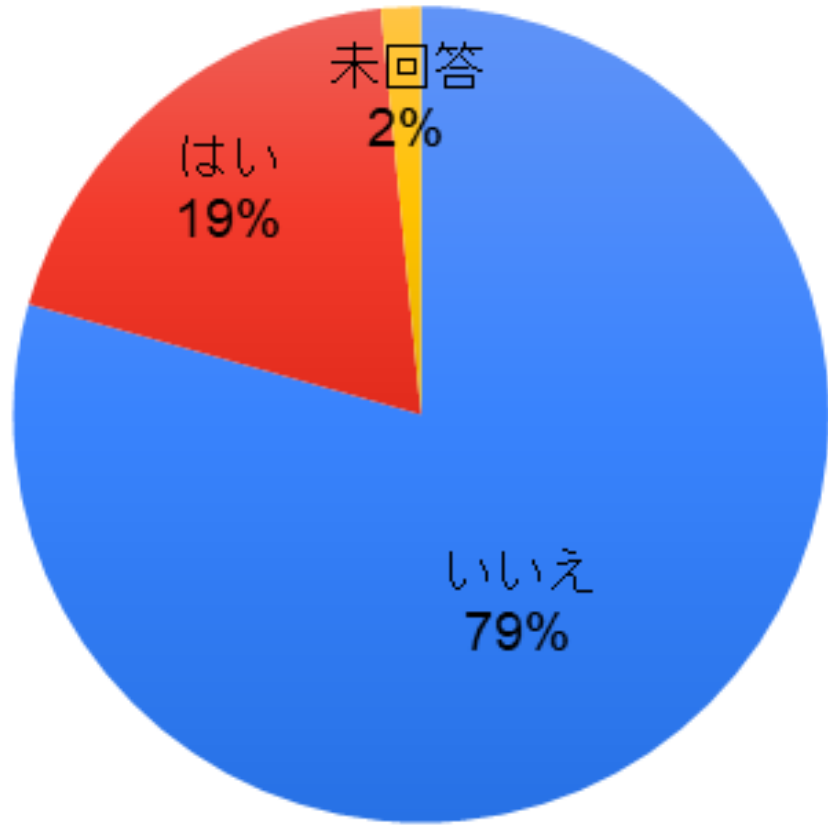
現在あるいは以前に勤務先以外の組織で指導的立場にあったか



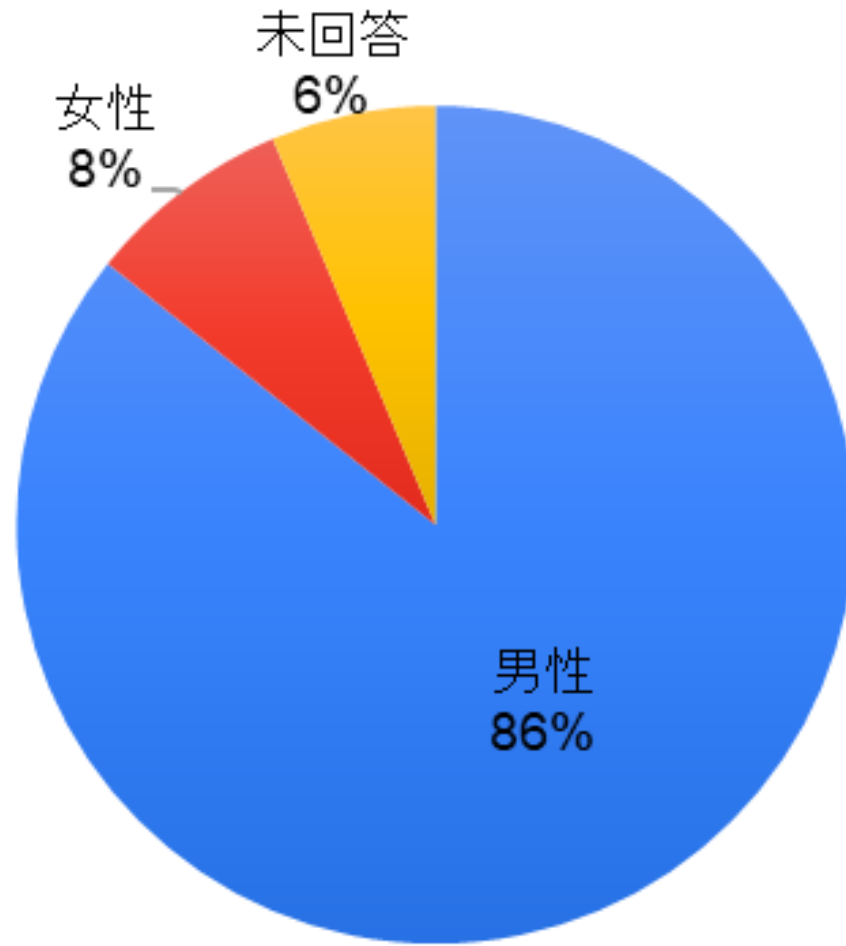
はい：
研究グループ代表
専門医会理事

10.

現在、管理職に就いているか



12. 直属の上司の性別

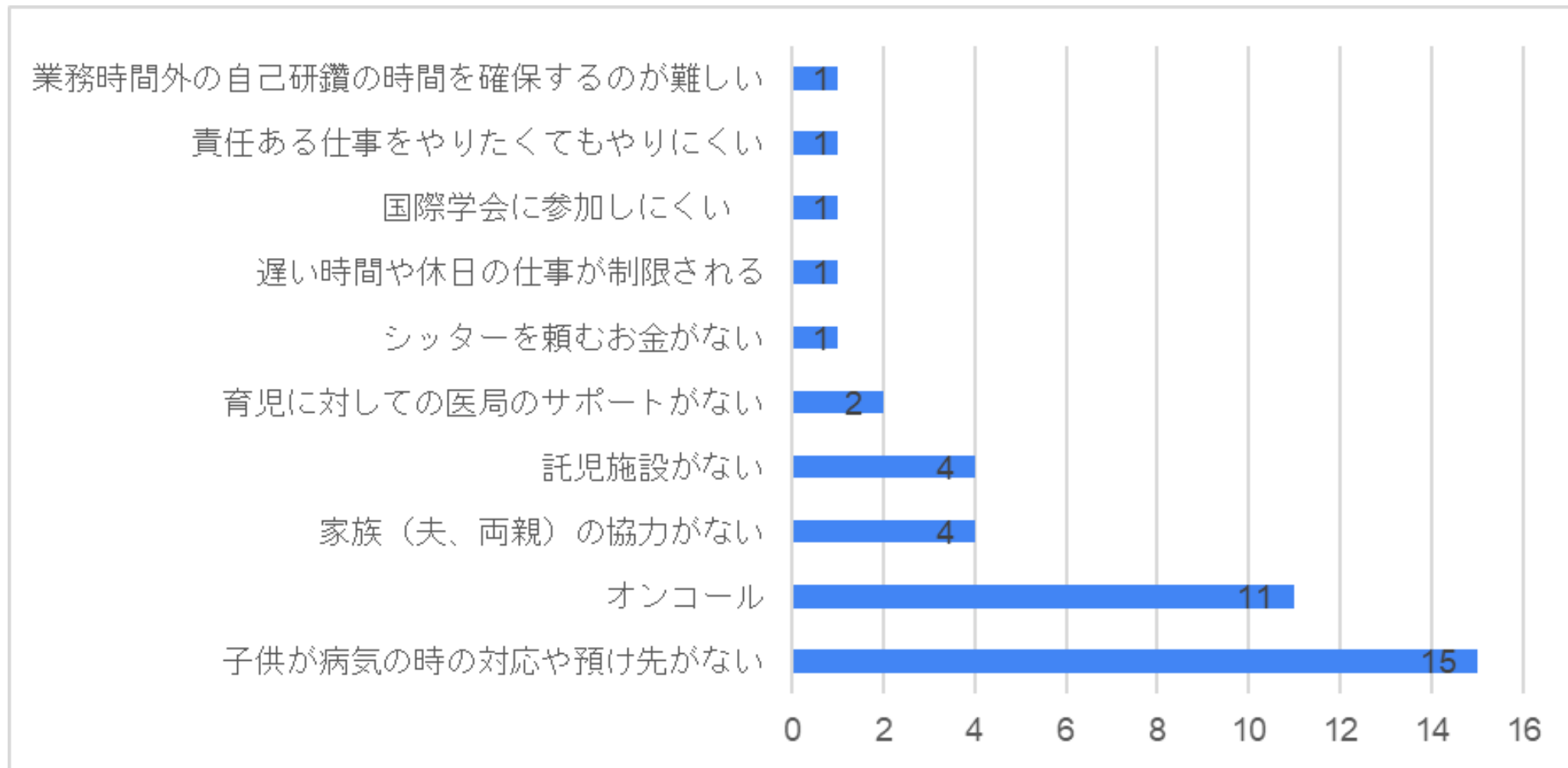


CIRSE

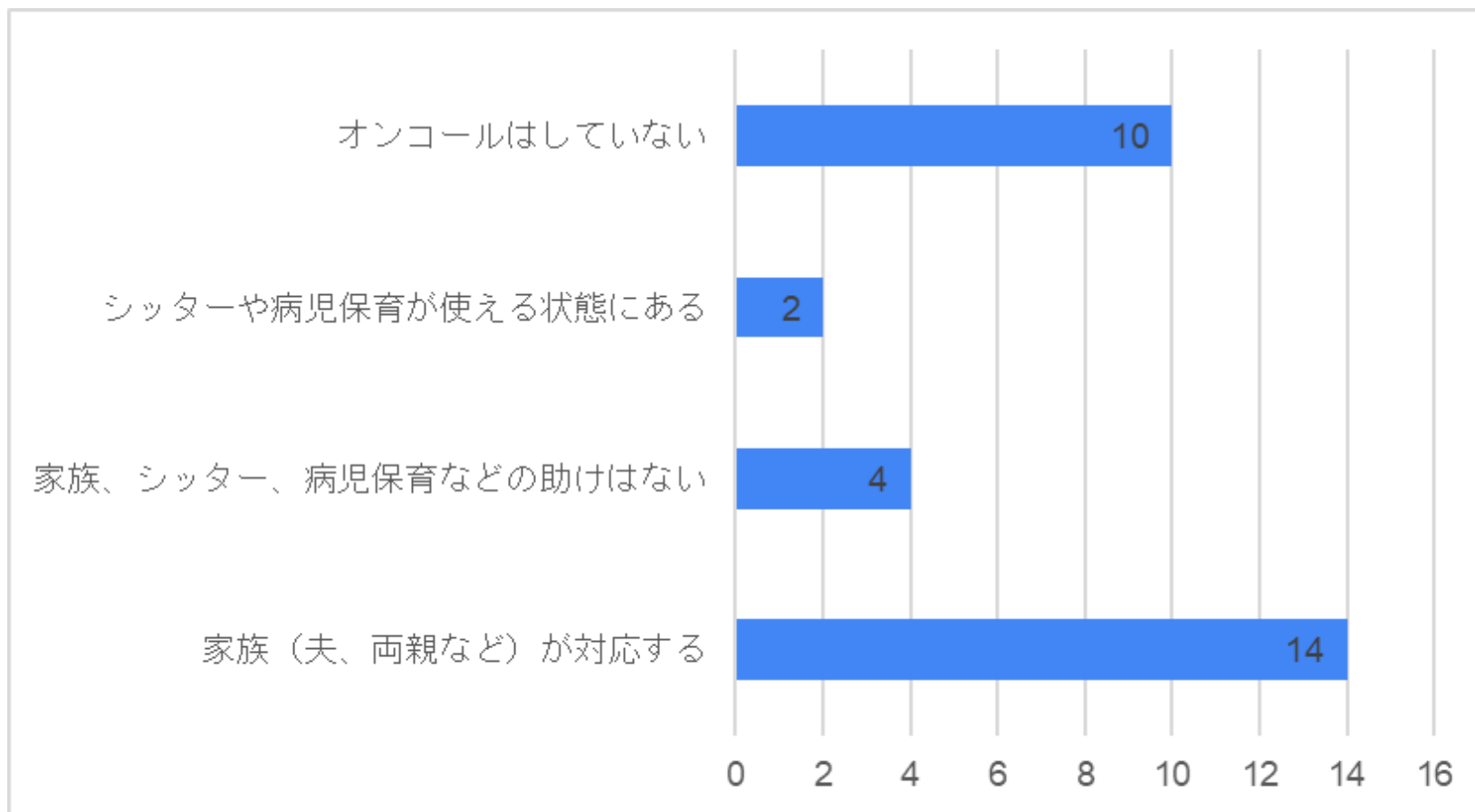
79% (n=117) : 男性

13. 子育て中の方への質問。

子育てに関して困っていること（複数選択可）。



14. 子育て中の方への質問。
オンコールや、子供が病気の時の対応（複数選択可）。

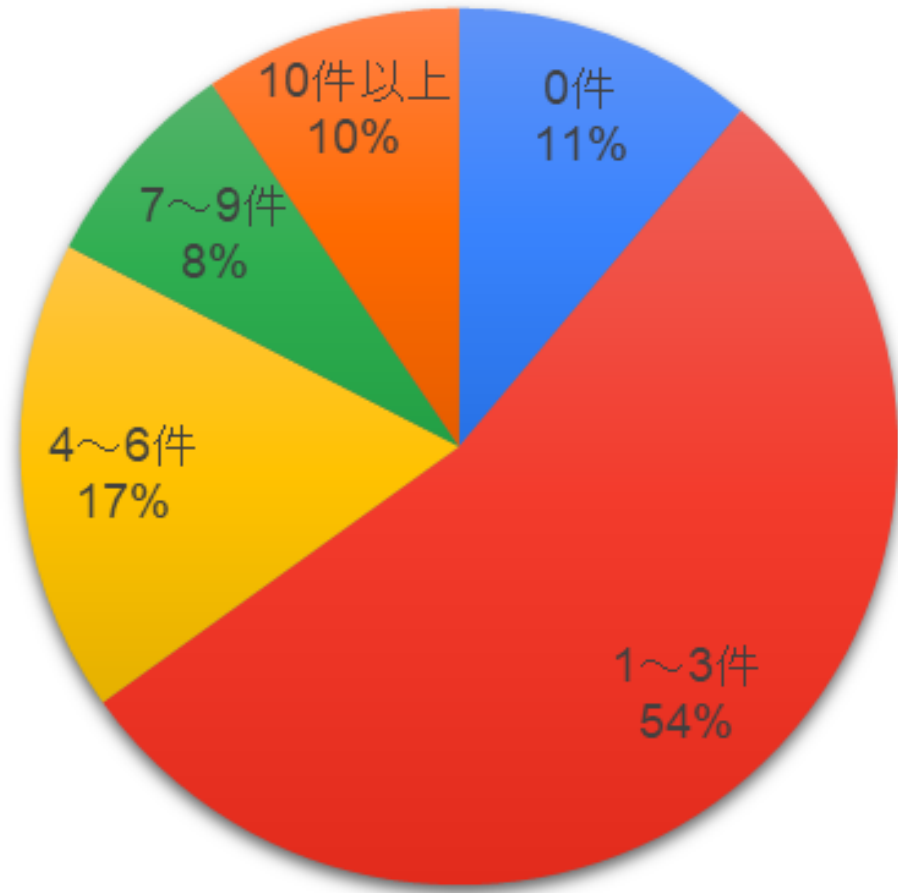


7. 結果

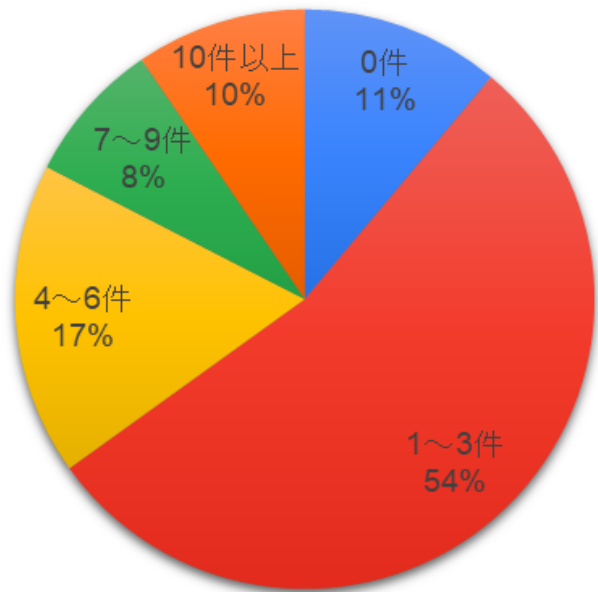
7-2.

女性IVR医の仕事とキャリア形成の現状

15. 平均的なIVR手技件数 (/週)

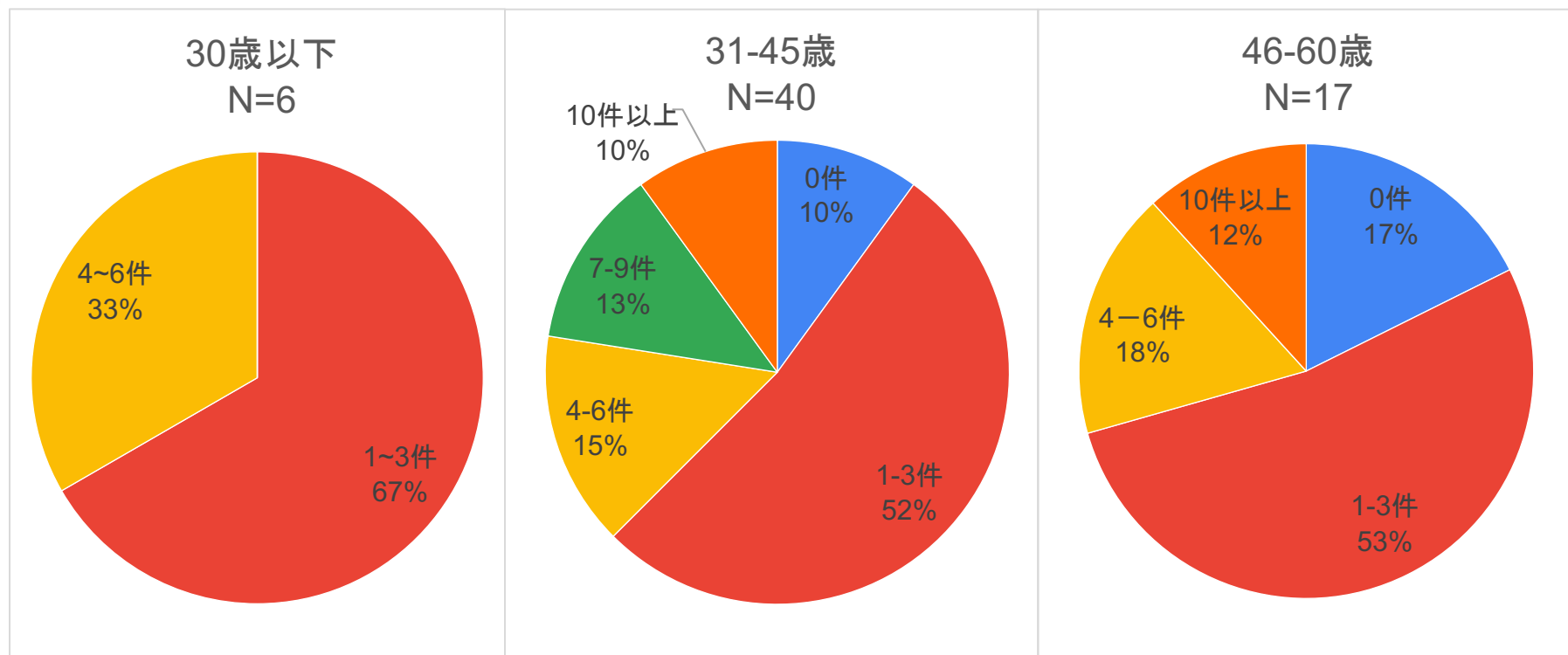


15. 平均的なIVR手技件数 (/週)



全体

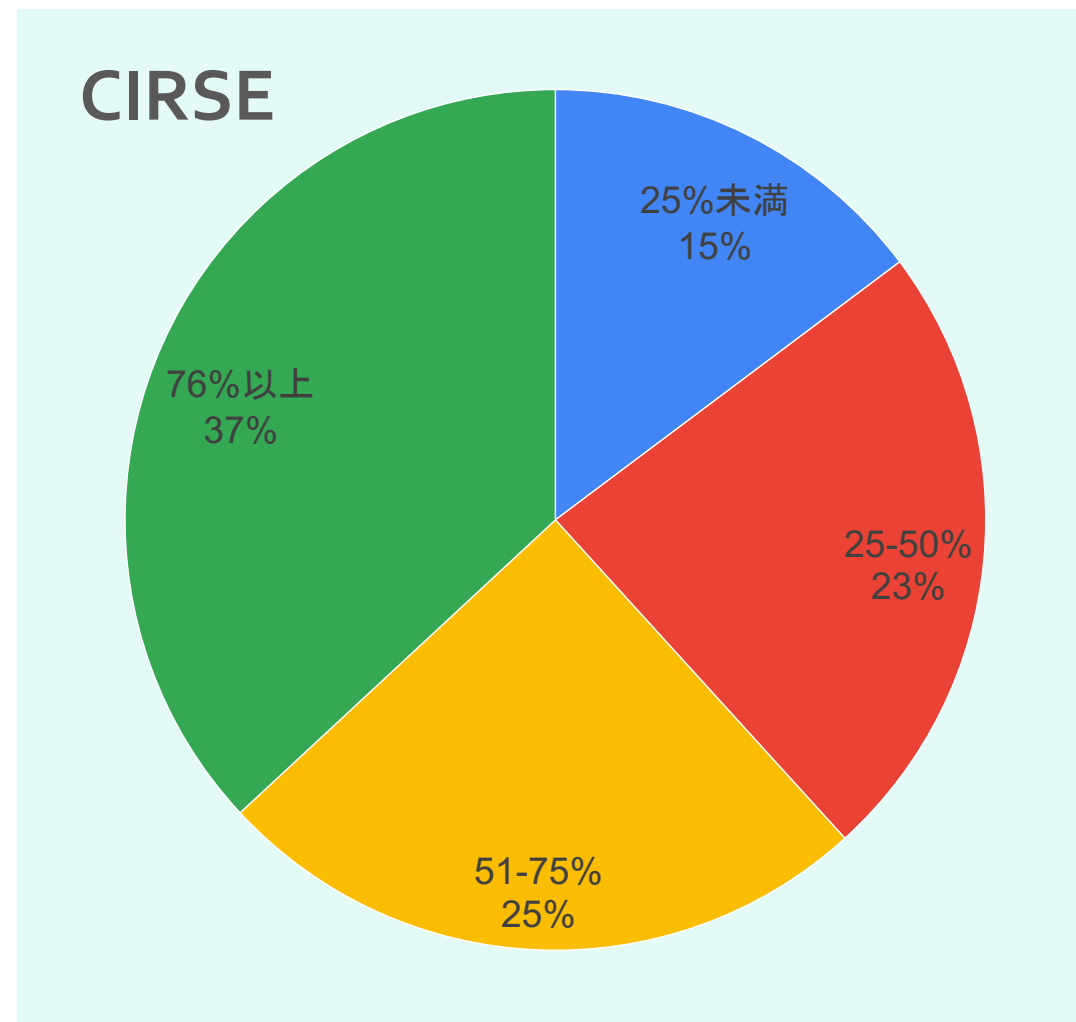
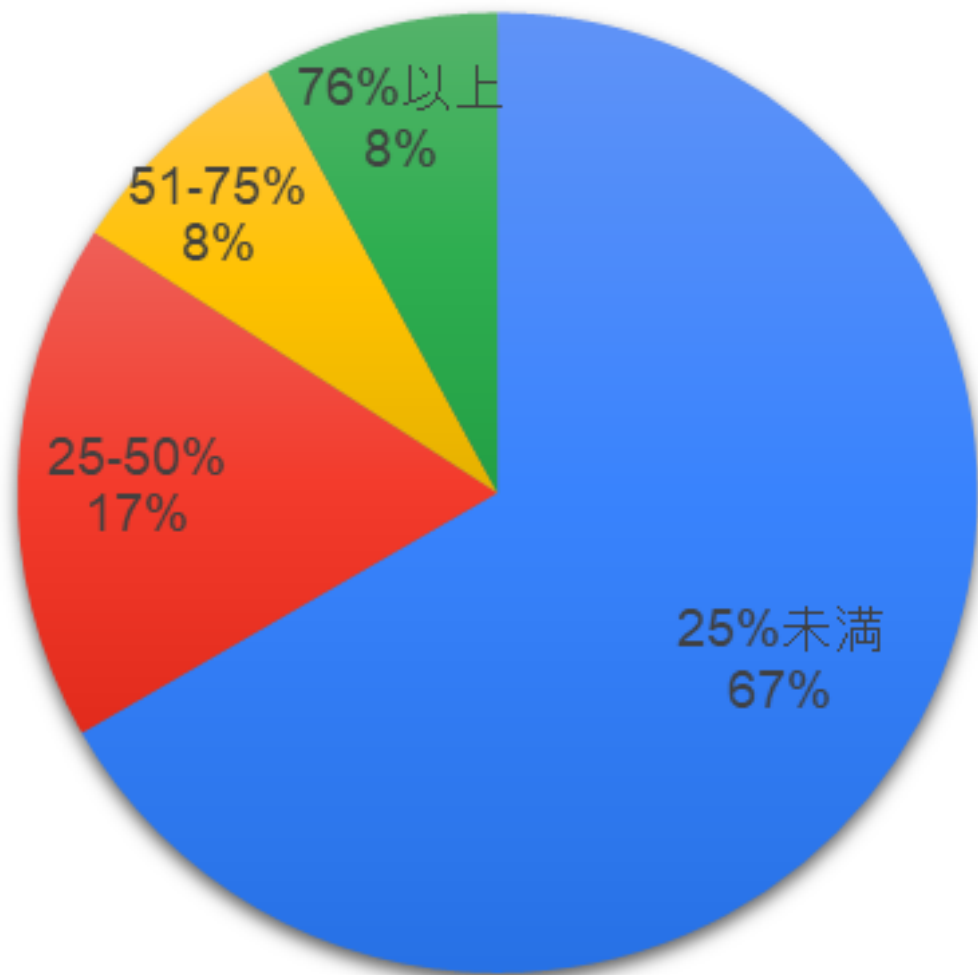
年代別



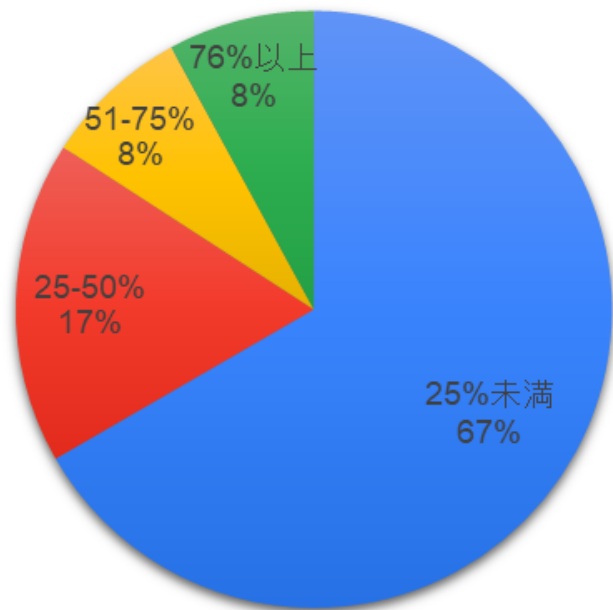
15-2. 平均的なIVR手技件数（/週）
（病院規模別）

件数\病床数	800床以上	400-799床	200-399床	50-199床	計
10件以上	0	6	0	0	6
7-9件	1	4	1	0	6
4-6件	2	8	11	0	21
1-3件	6	15	0	2	23
0件	1	3	0	2	6
計	10	36	12	4	62

16. 総勤務時間に対しIVRに従事している割合

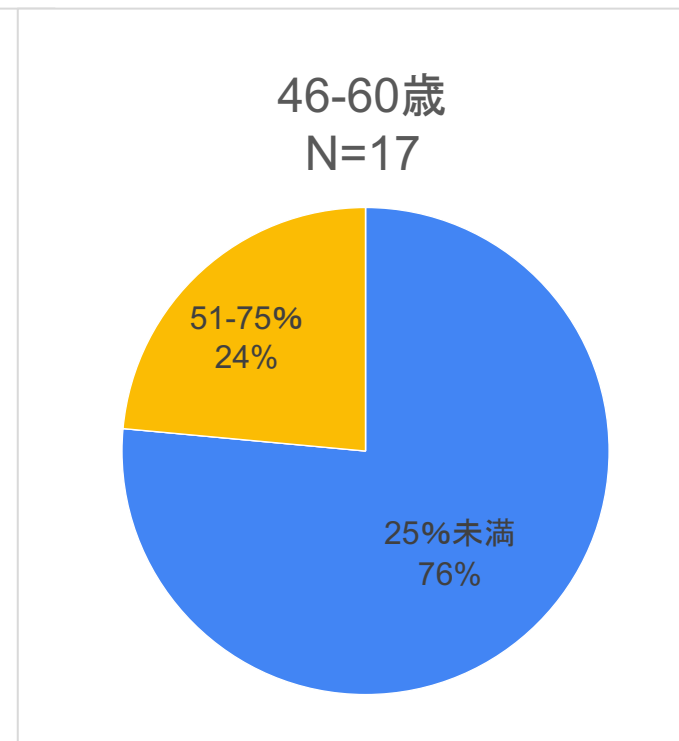
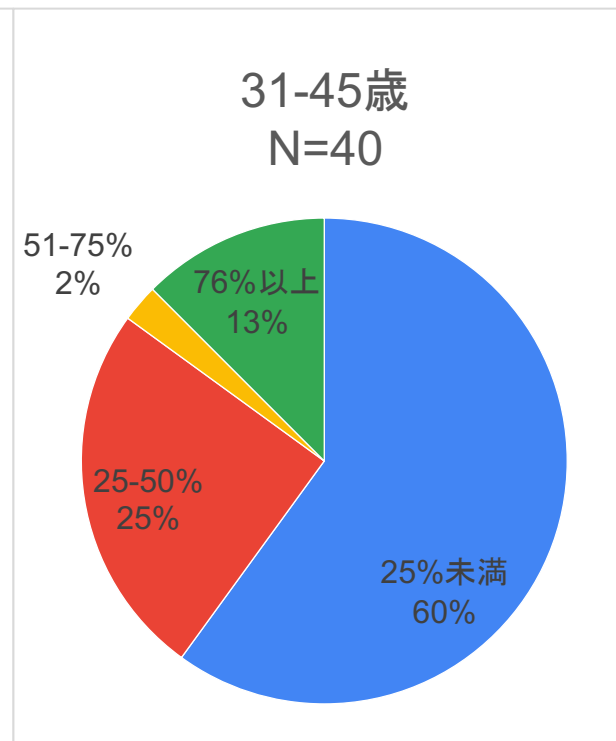
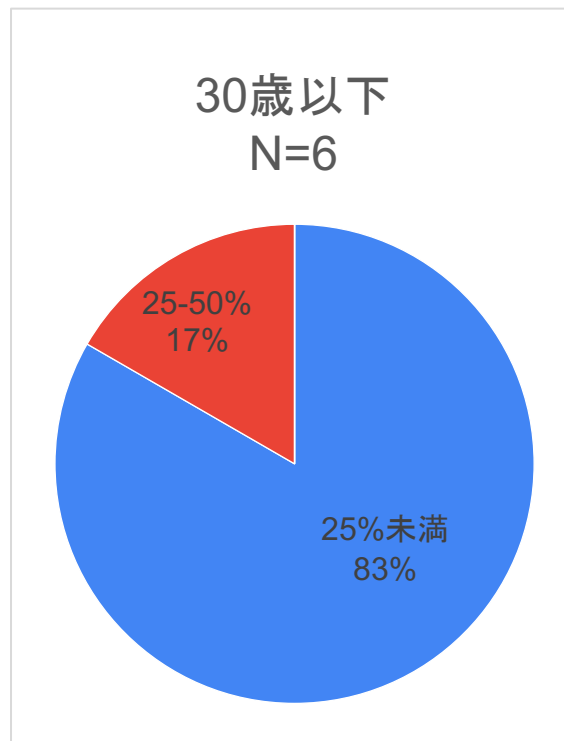


16. 総勤務時間に対しIVRに従事している割合

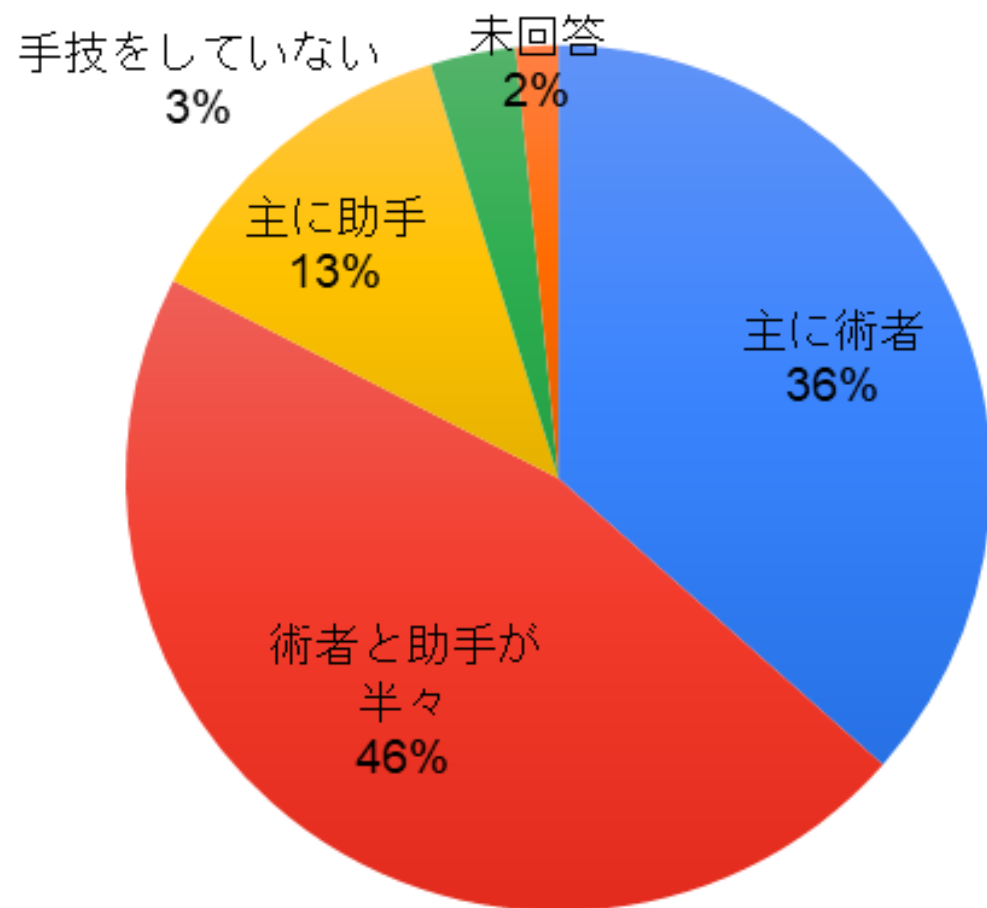


全体

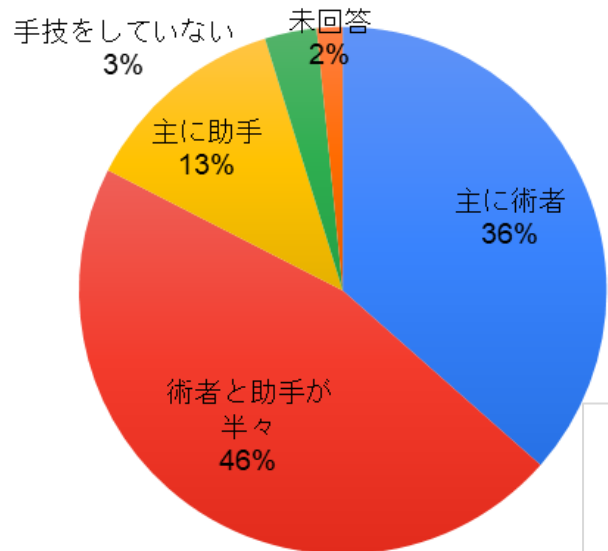
年代別



17. IVR手技は、主たる術者として行うことが多いか。

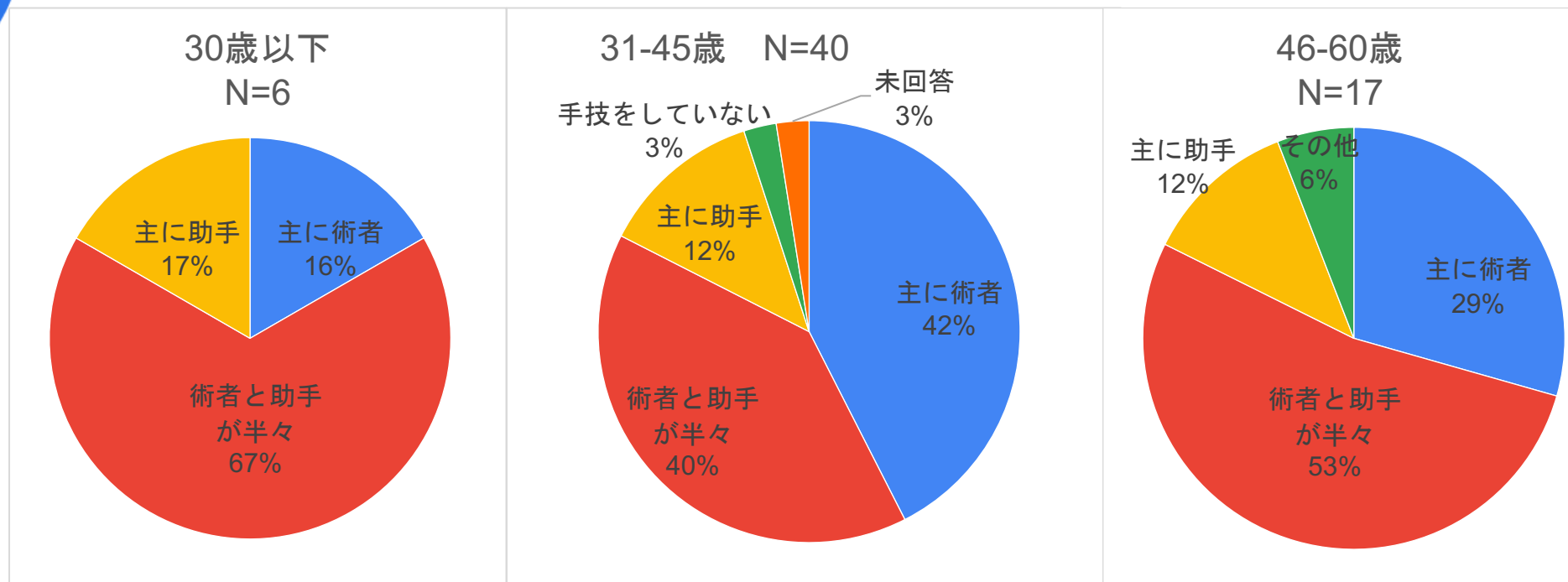


17. IVR手技は、主たる術者として行うことが多いか。

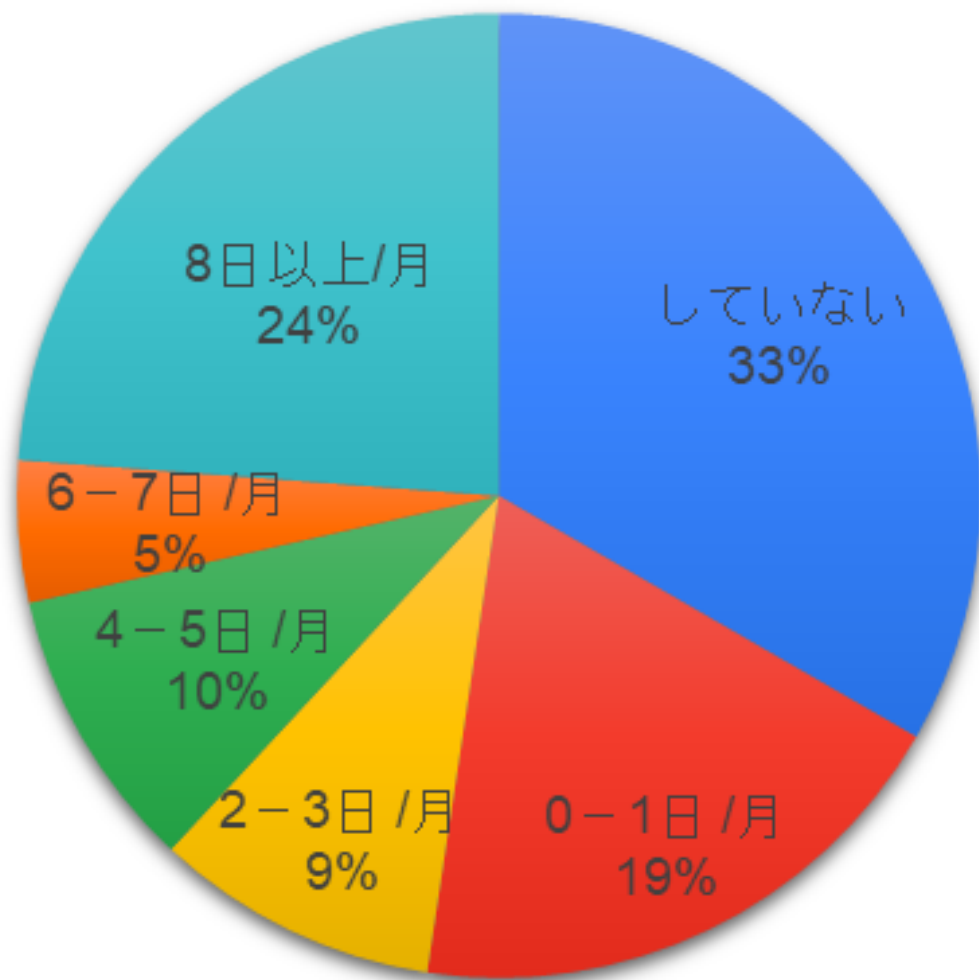


全体

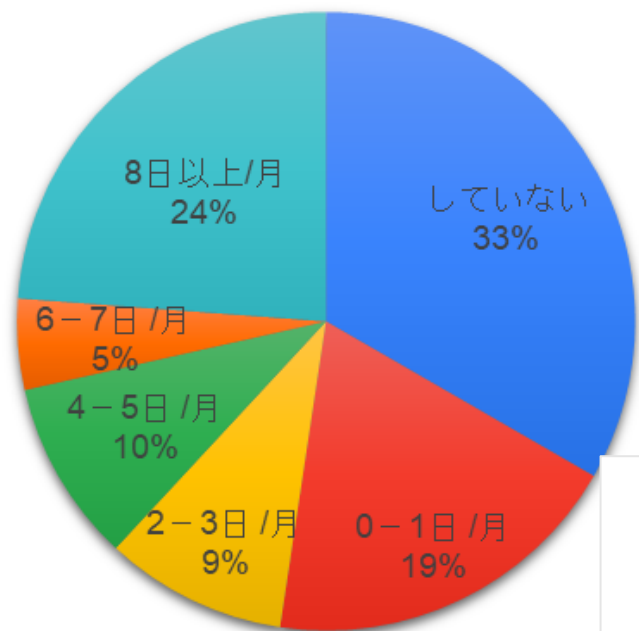
年代別



18. IVRのオンコール対応をしているか。

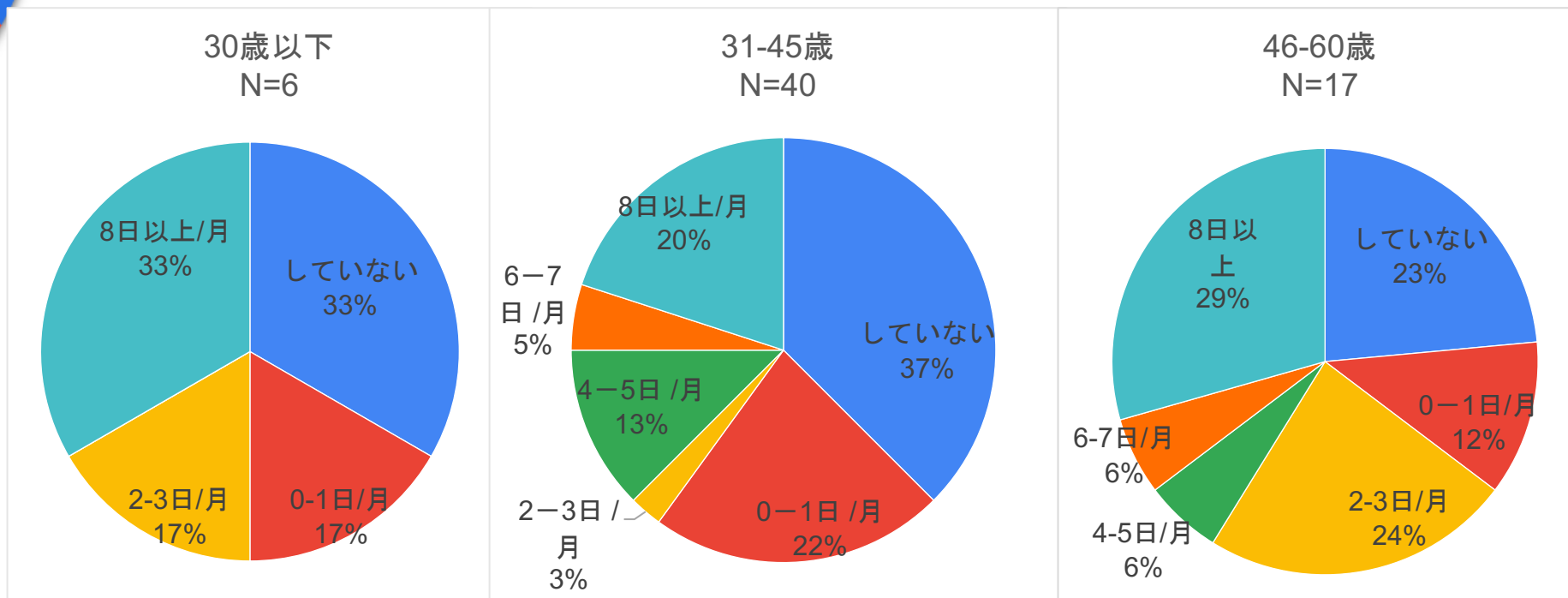


18. IVRのオンコール対応をしているか。

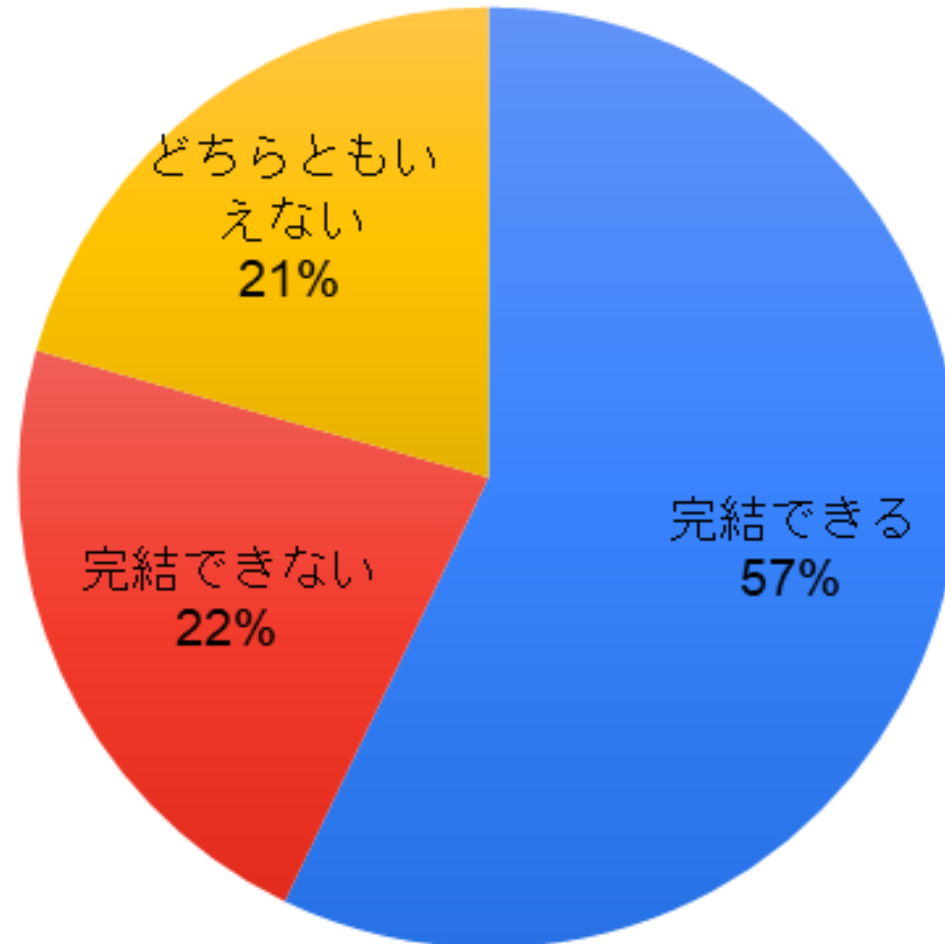


全体

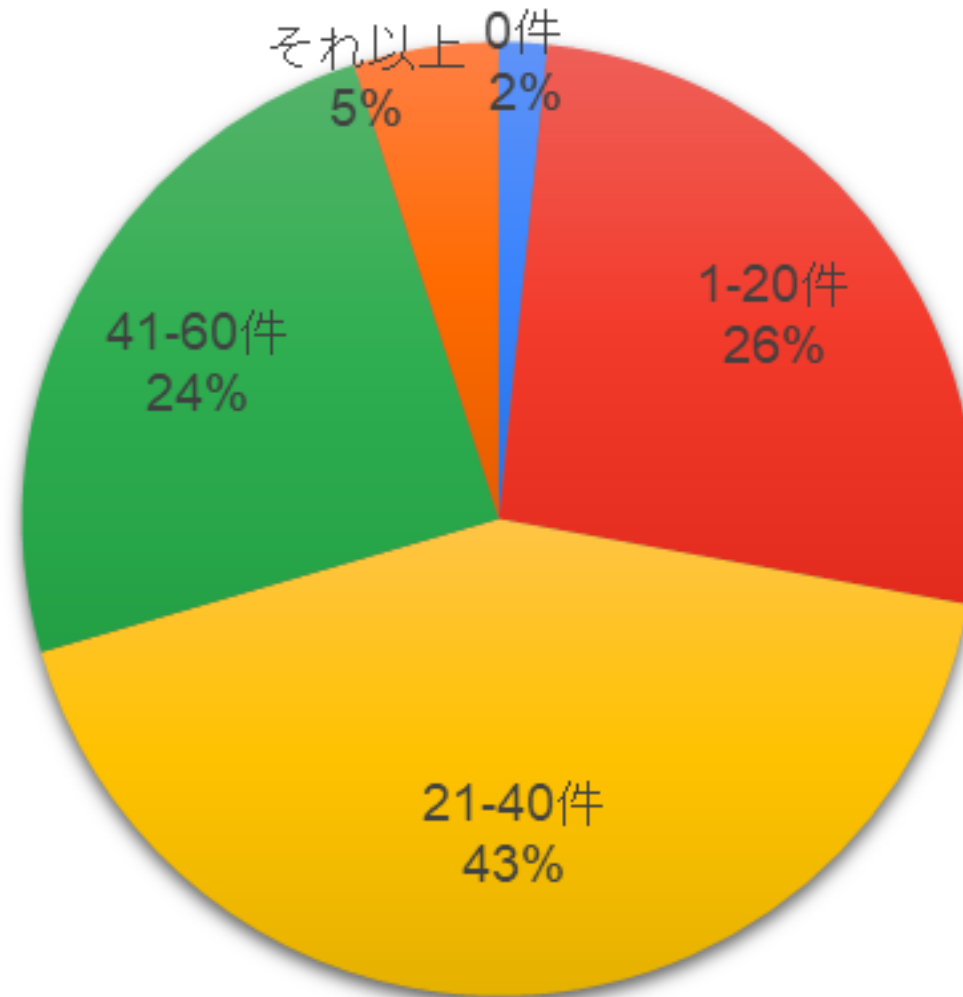
年代別



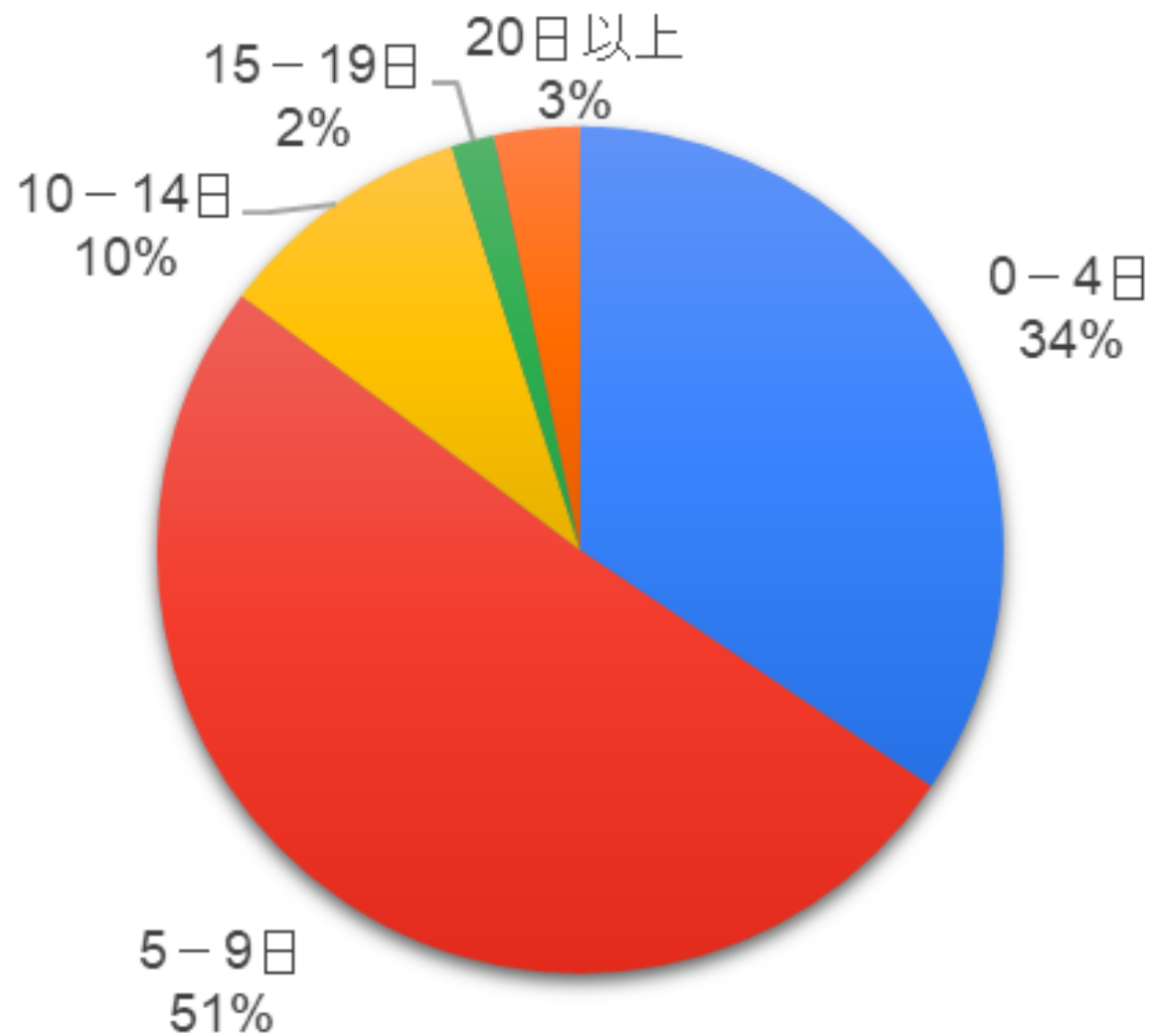
19. 標準的な緊急止血IVRを、自分だけで治療適応を決定し、手技を完結できるか。



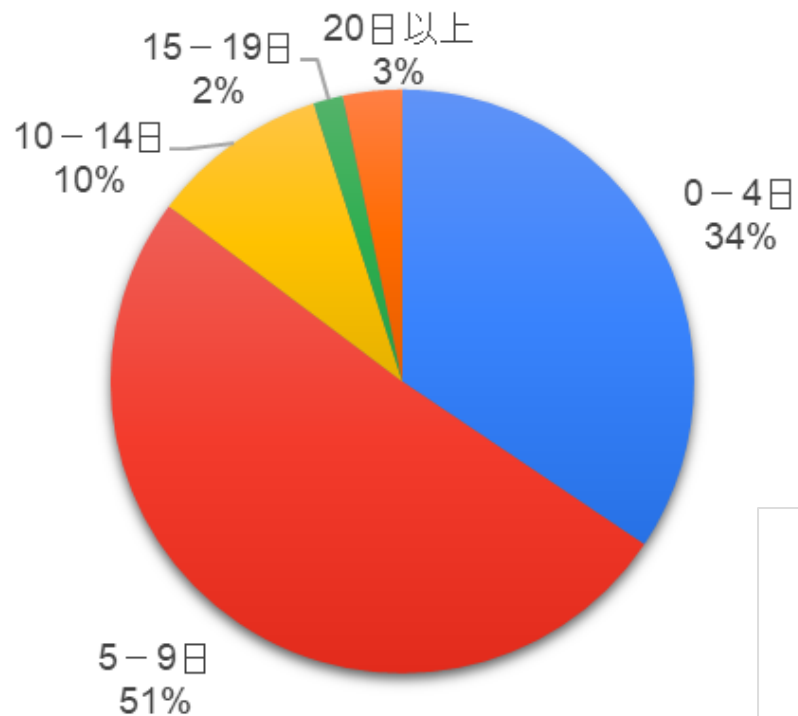
20. 放射線科の先生への質問。
一日平均の読影レポート作成件数



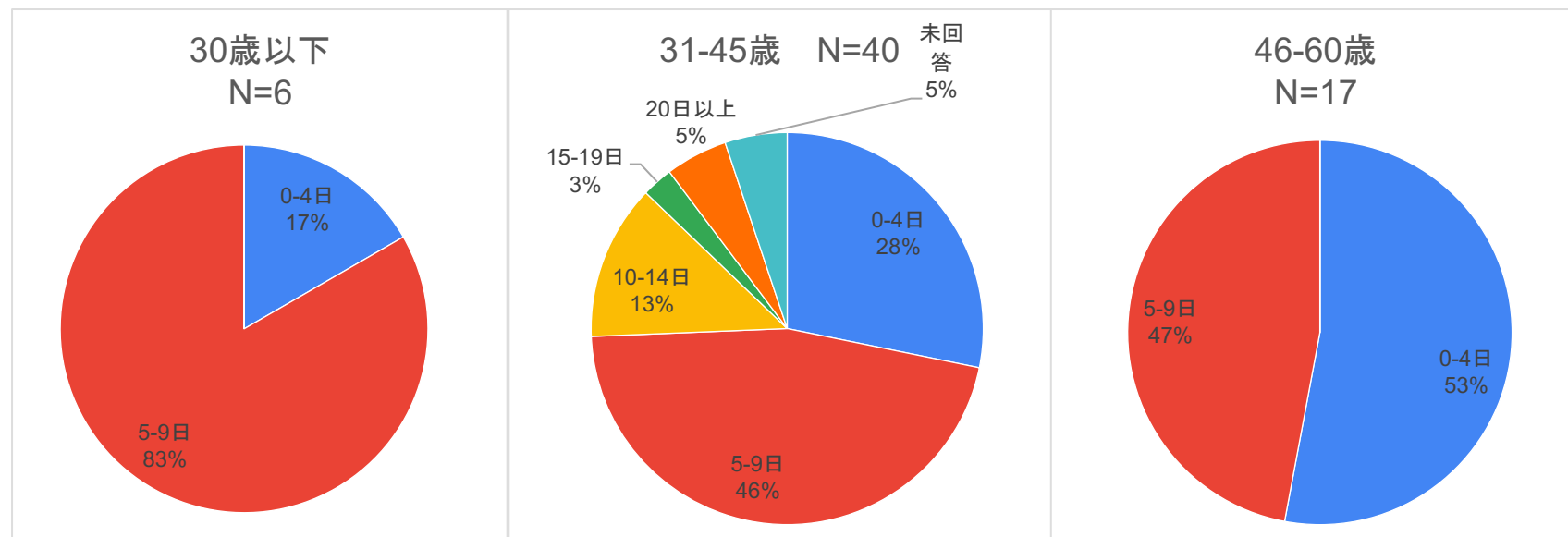
21. 昨年度の有休休暇の取得日数



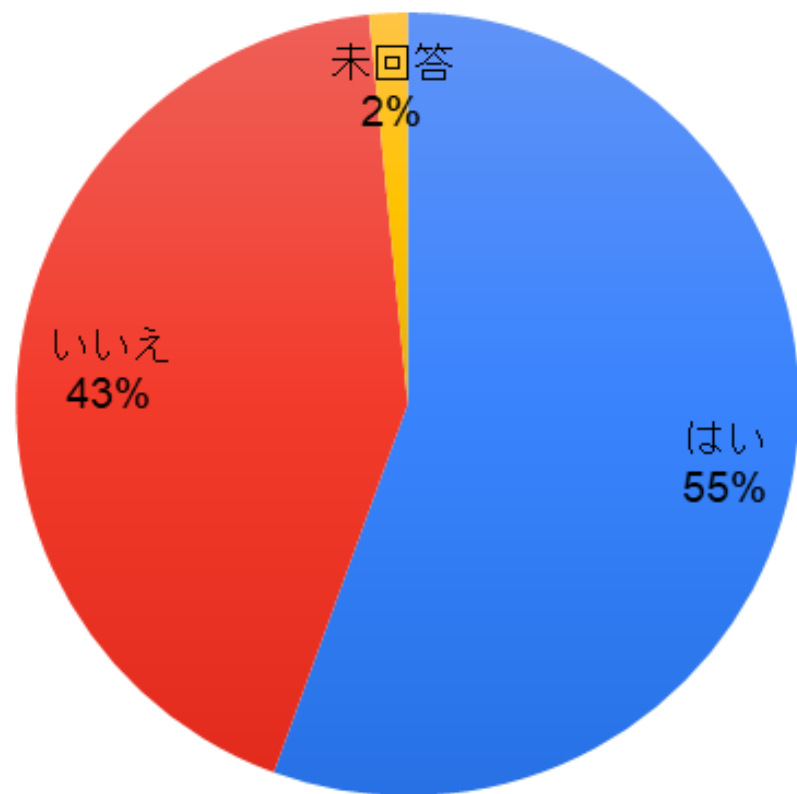
21. 昨年度の有休休暇の取得日数



年代別

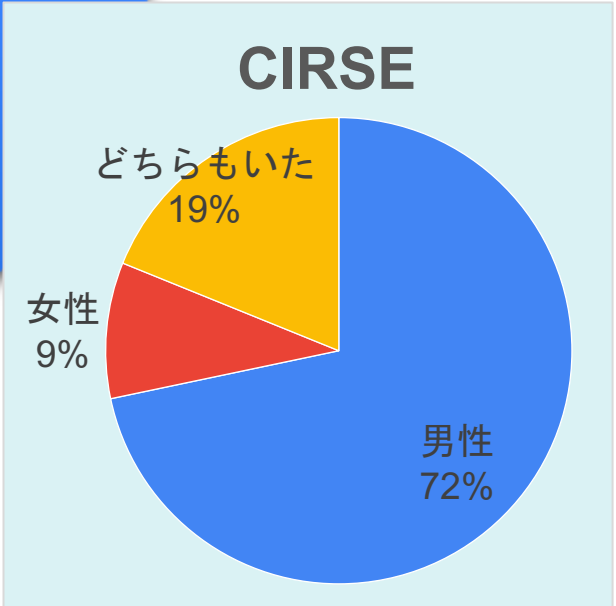
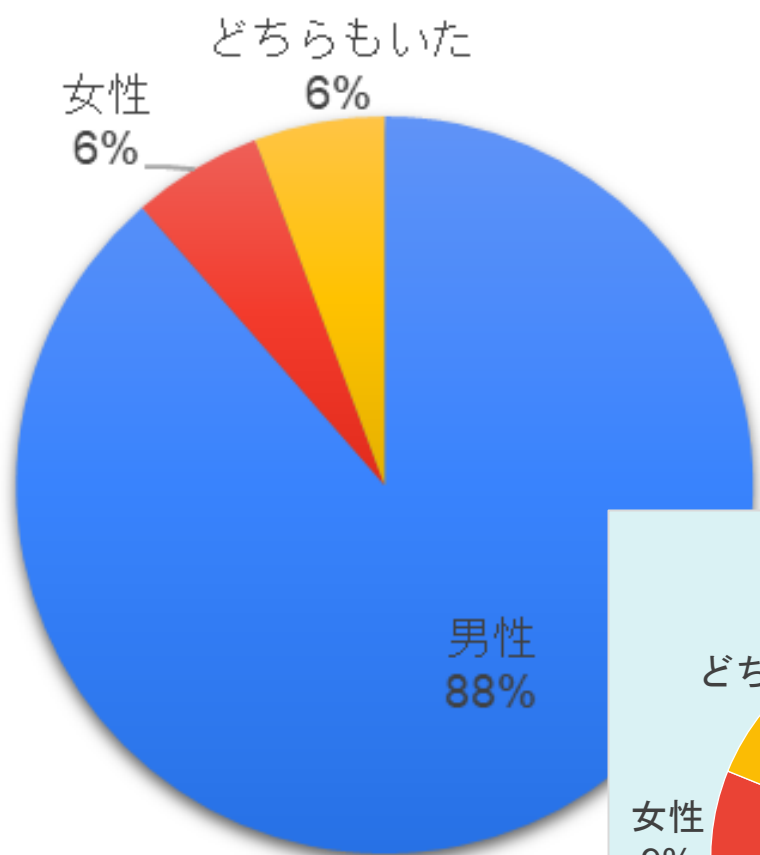


21.
メンターかロールモデルがいたか

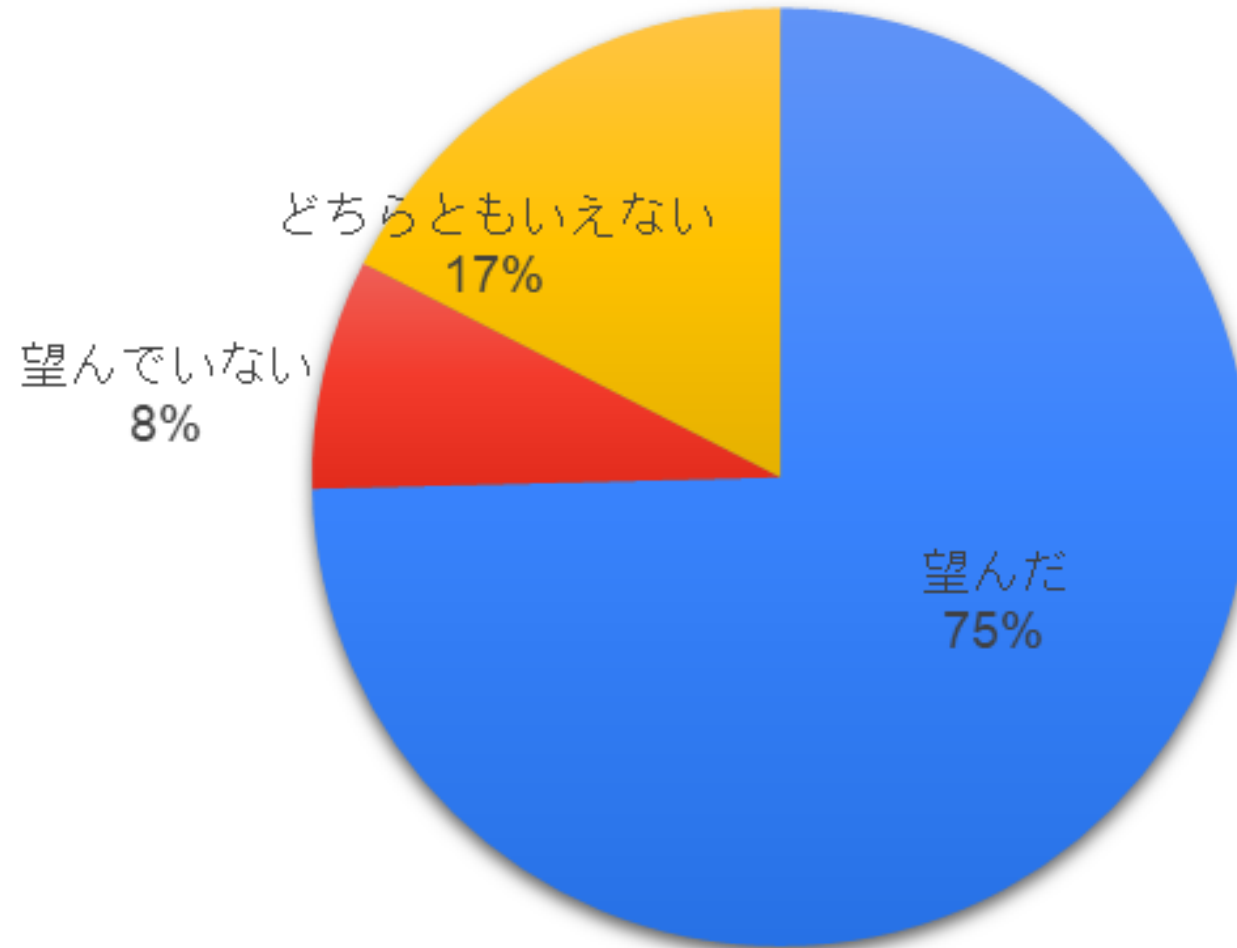


CIRSE
はい : 82% (n=107)

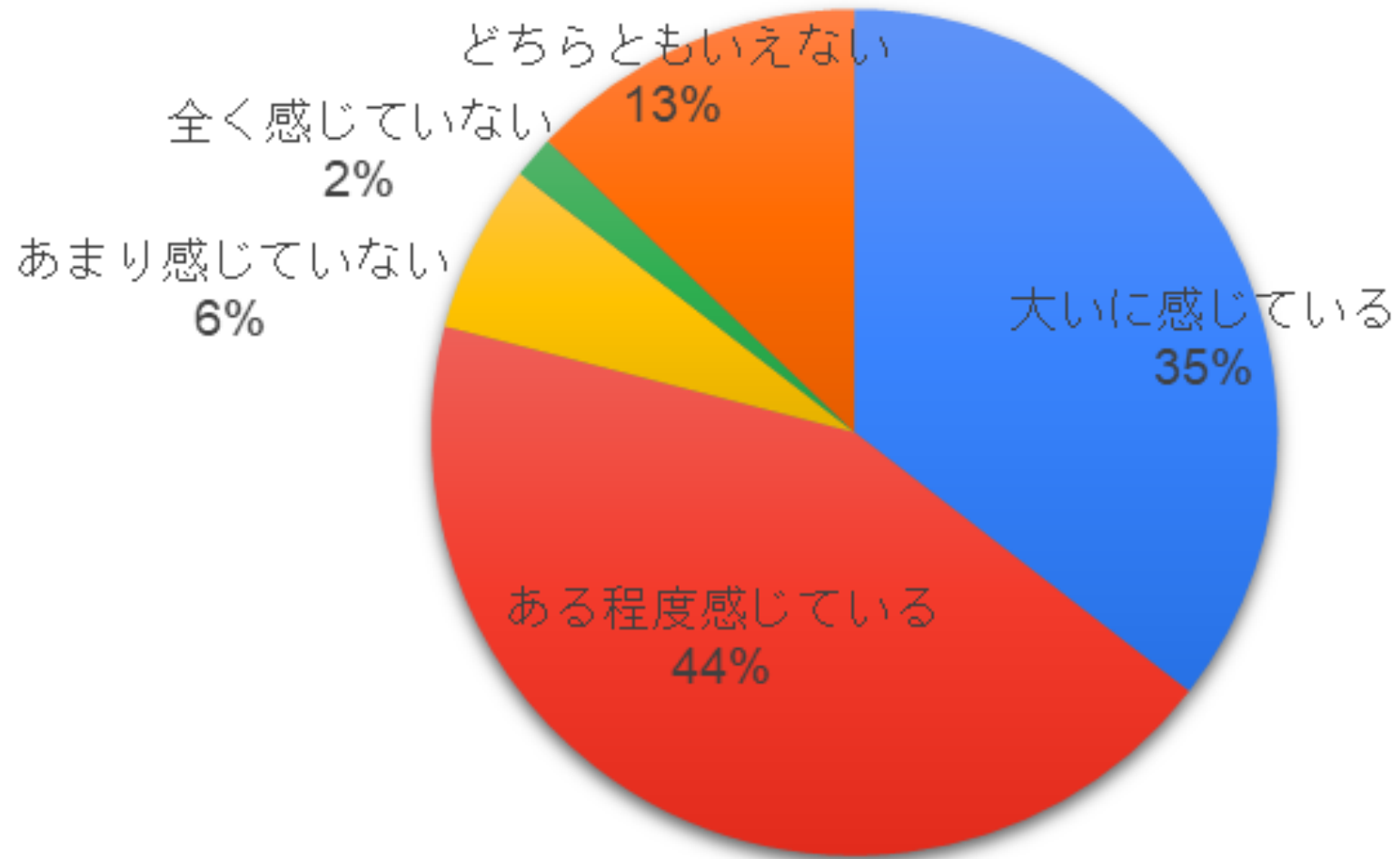
22.
メンターあるいはロールモデルの性別



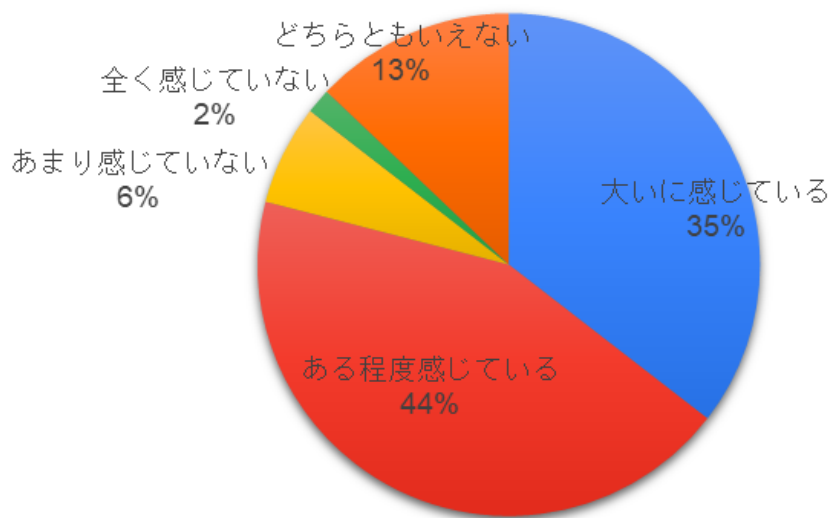
23. IVRは自分が望んだ道か、あるいは環境的にやらざるを得ないのか



24. 今の自分の仕事（IVR業務）にやりがいを感じているか

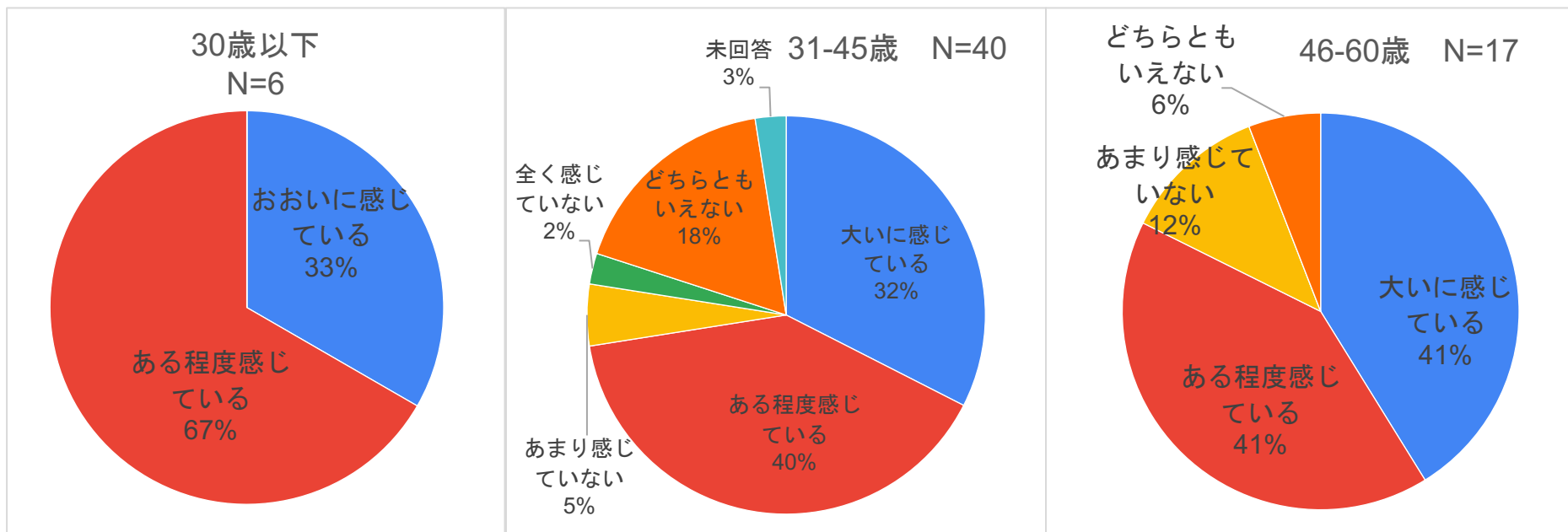


24. 今の自分の仕事（IVR業務）にやりがいを感じているか

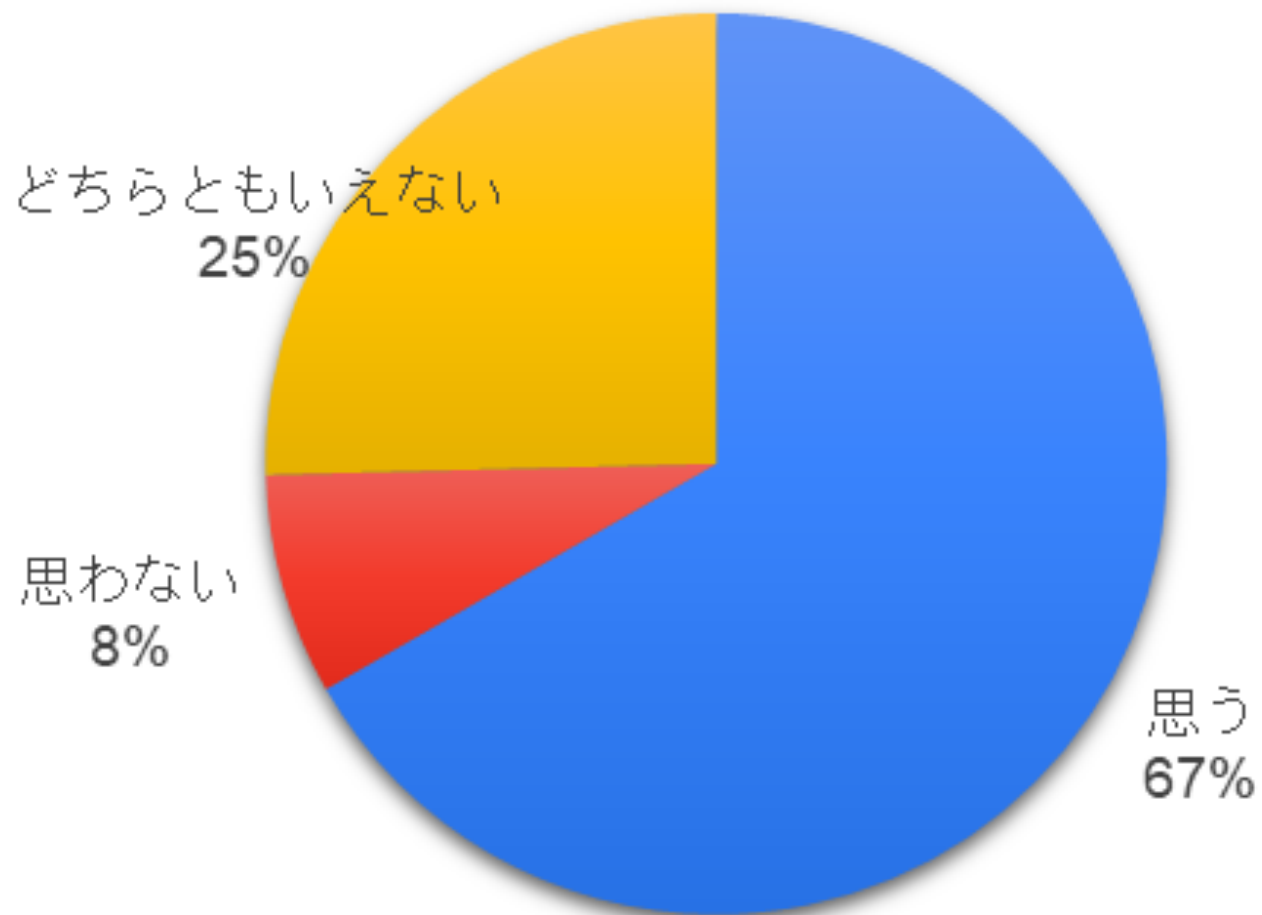


全体

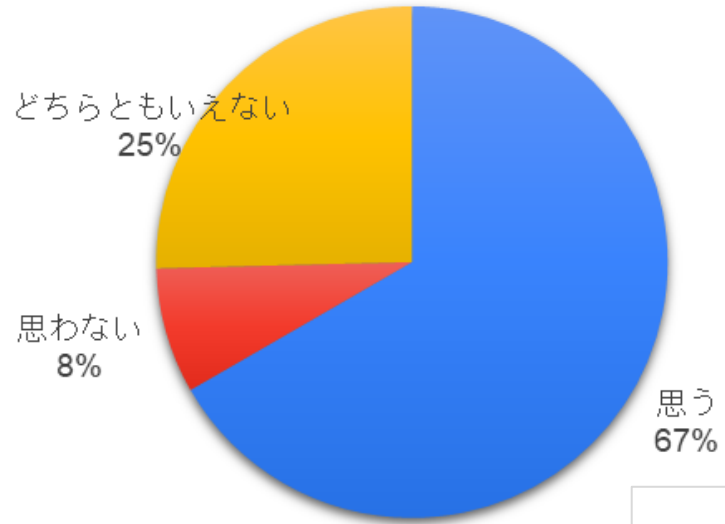
年代別



25. 今後もIVRをやり続けたいか

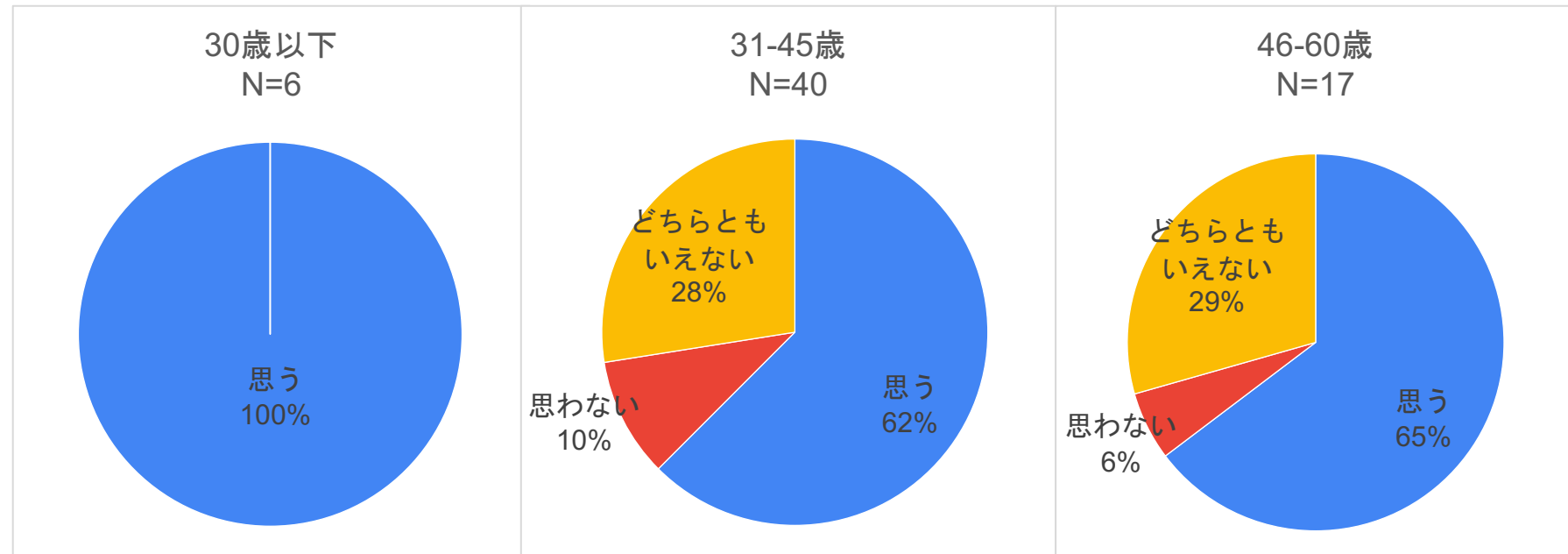


25. 今後もIVRをやり続けたいか

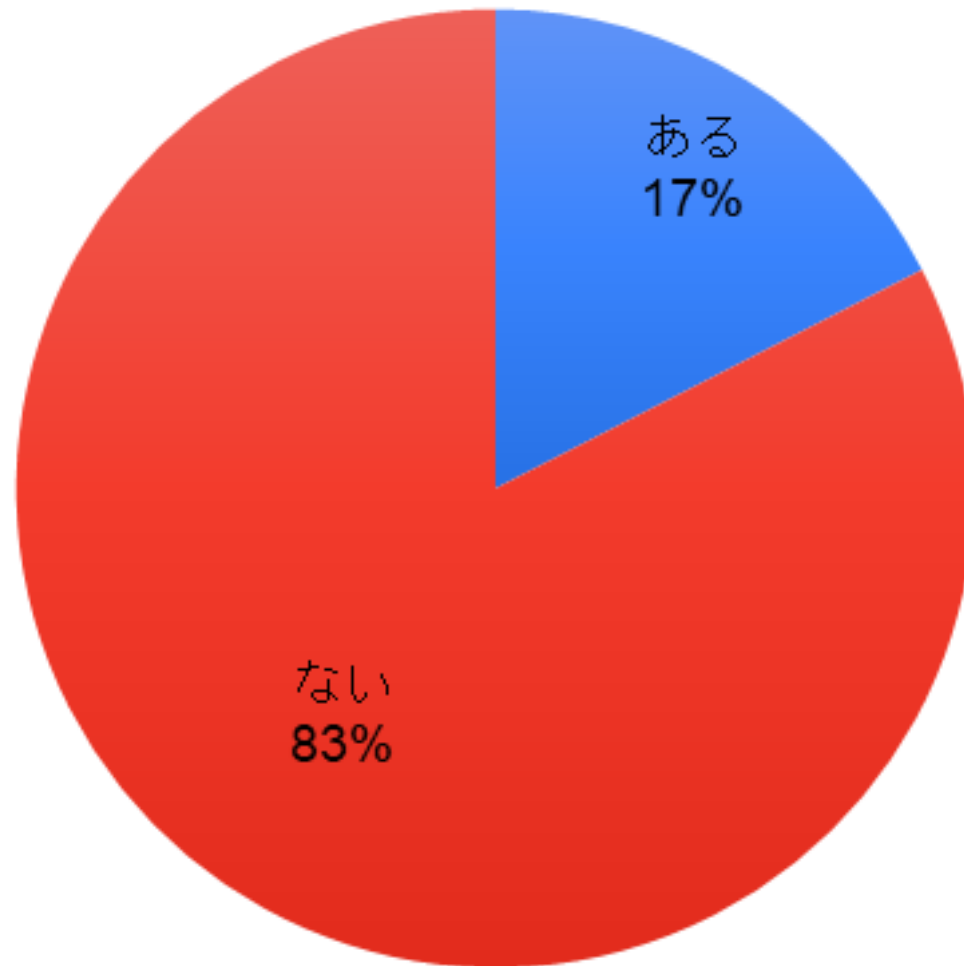


全体

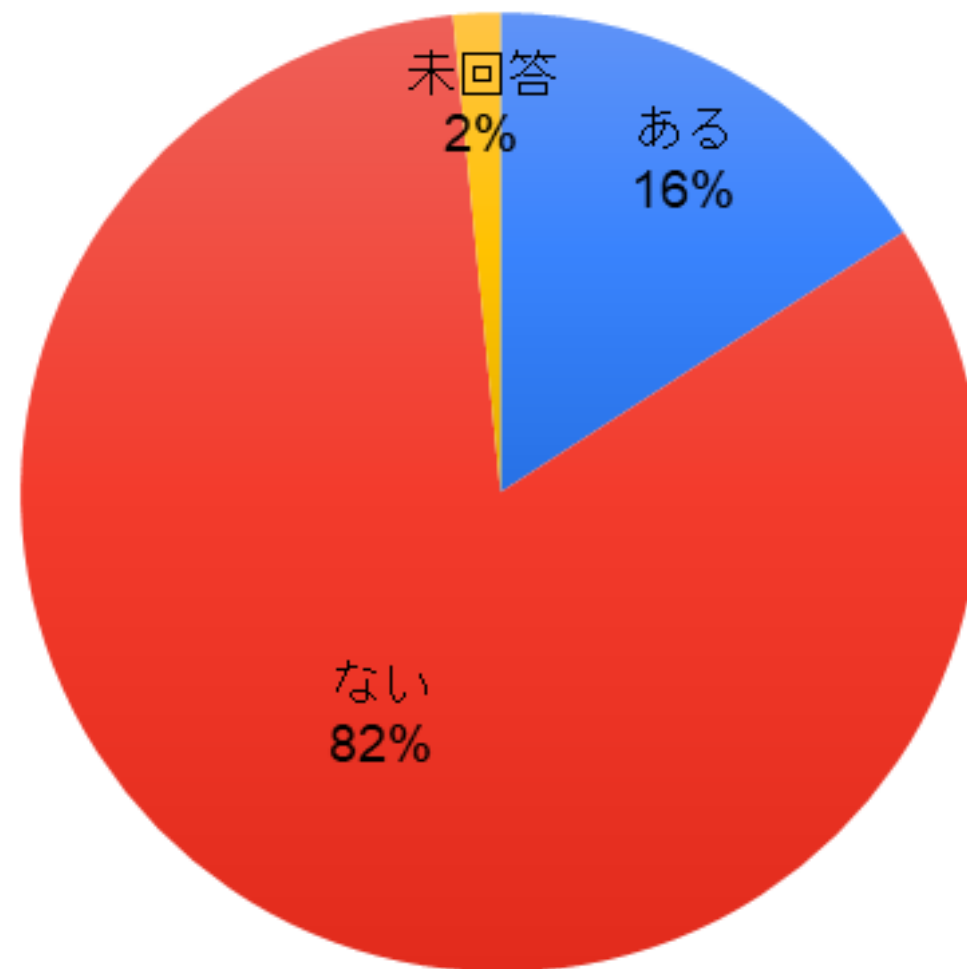
年代別



26-1. セクシャルハラスメントはあるか



27-1. IVR業務において、パワーハラメントはあるか

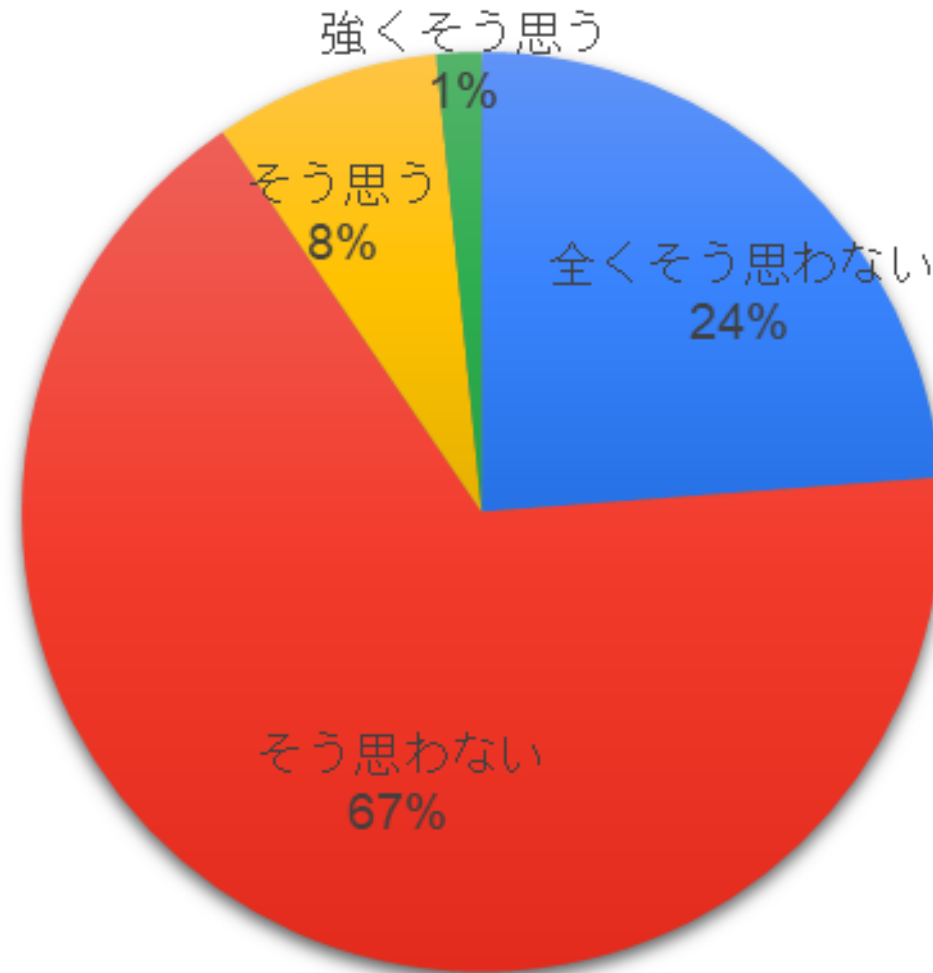


7. 結果

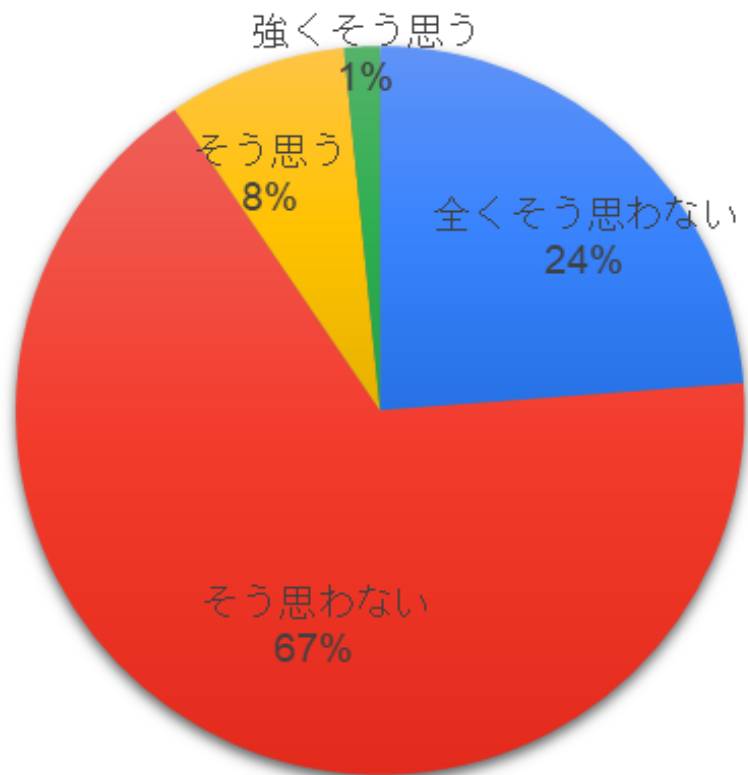
7-3.

女性IVR医の障壁とアドバンテージ

28. “IVRはほかの医学専門領域と比べて女性にとって魅力が少ない”



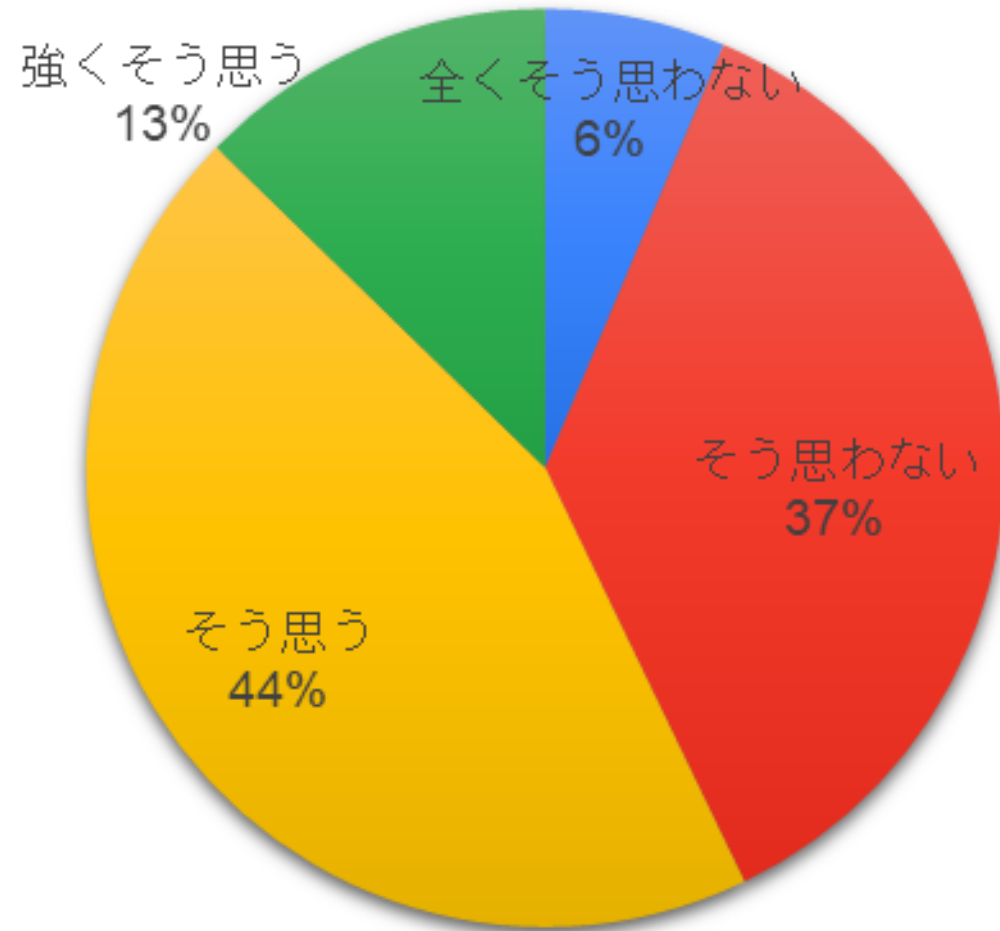
28. “IVRはほかの医学専門領域と比べて女性にとって魅力が少ない”



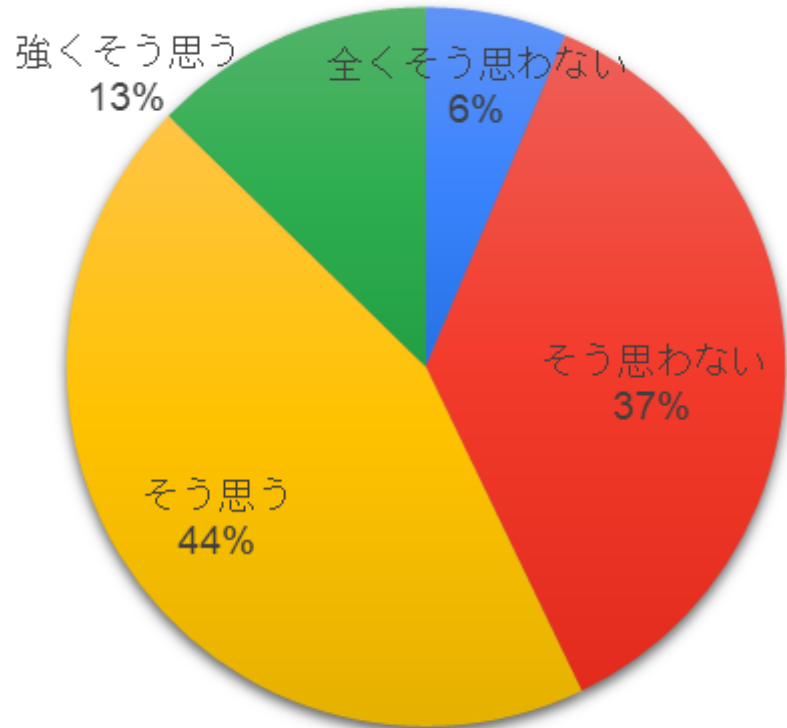
そう思わない（魅力はある）と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	100 (6/6)	33.3
31－45歳	87.5 (35/40)	59.0
46－60歳	94.1 (16/17)	84.6
60歳より上	N/A	100

29. “女性はIVRの分野でキャリアを積むのに不利である”



29. “女性はIVRの分野でキャリアを積むのに不利である”



そう思う（不利である）
と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	83.3(5/6)	44.4
31－45歳	62.5 (25/40)	43.4
46－60歳	35.3 (6/17)	28.8
60歳より上	N/A	0

30. “強くそう思う（不利である）”理由 （自由記載のまとめ）

- 女性差別・男性優遇
- 妊娠出産育児中の勤務体制の制限・キャリアの中断

CIRSE

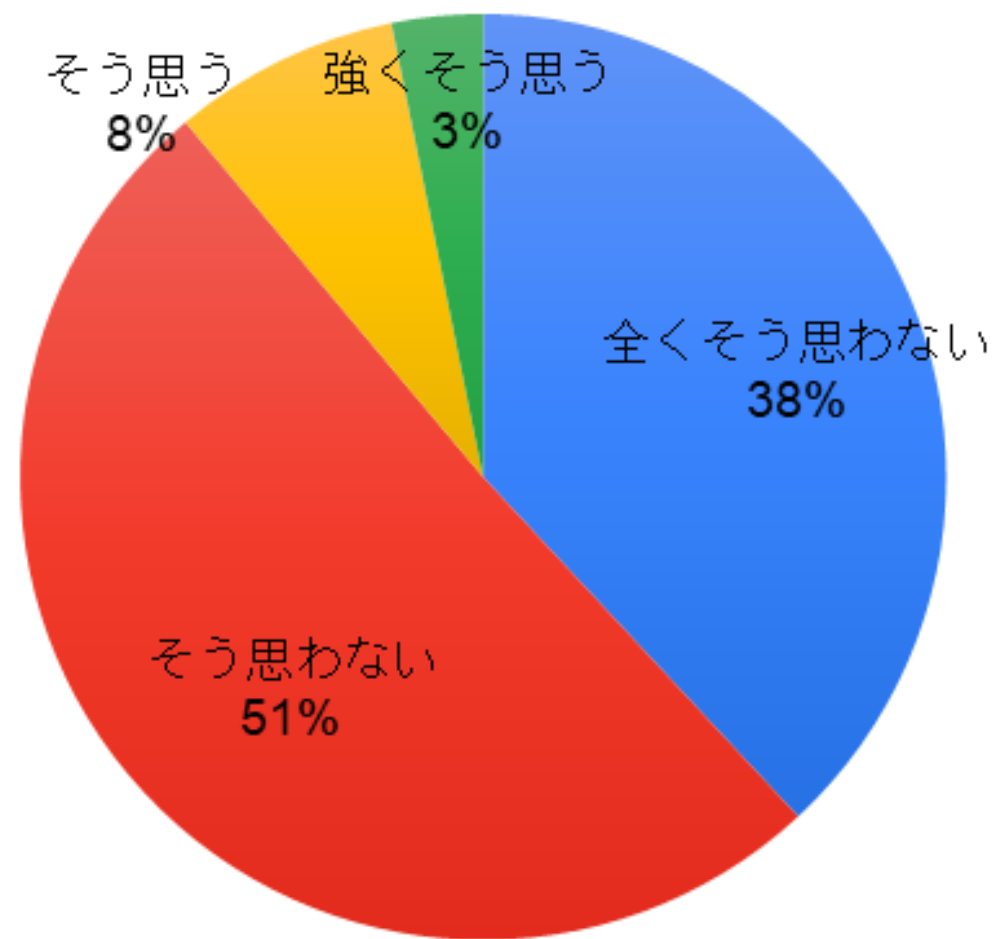
女性差別 : 36%

男性優位の領域 : 35%

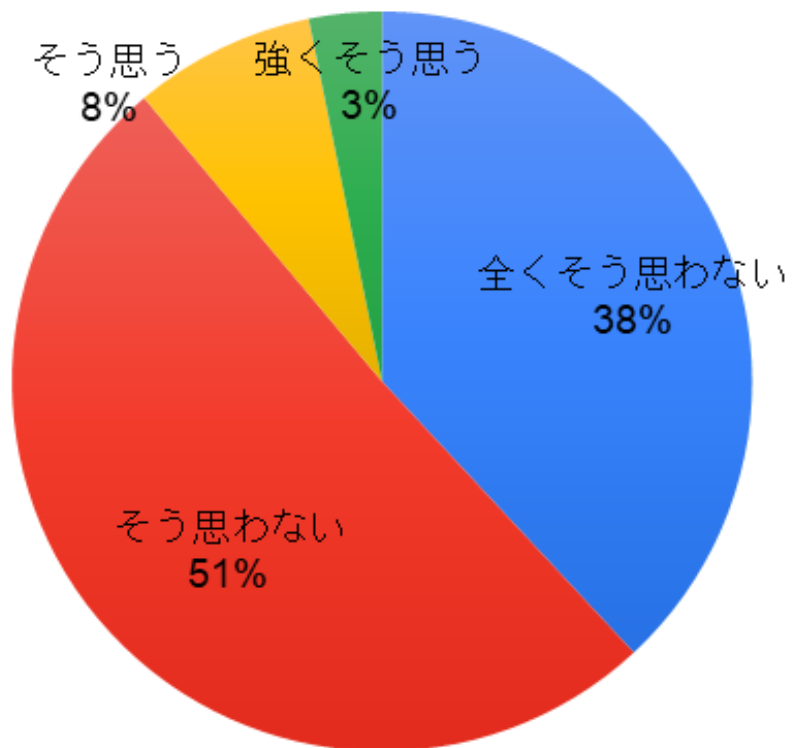
妊娠に関連した問題 : 35%

家庭との両立が難しい : 20%

31. “女性IVR医・放射線科医は、上司に差別されている”



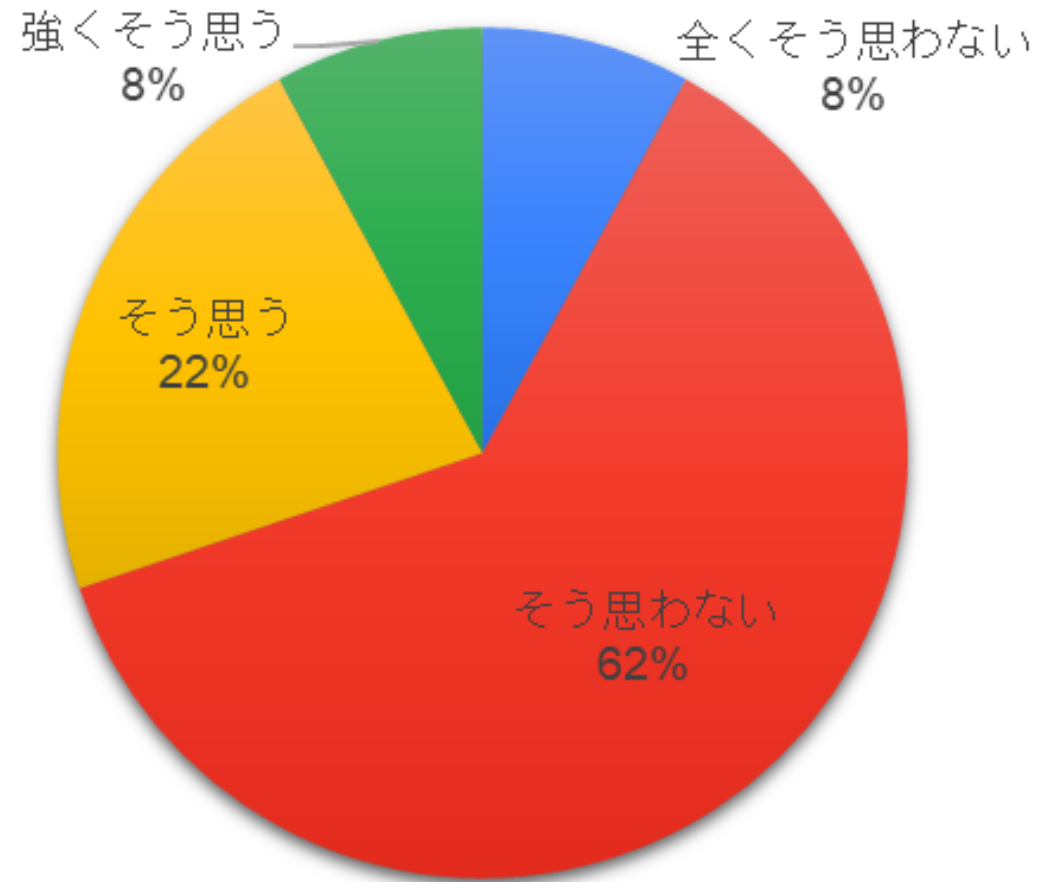
31. “女性IVR医・放射線科医は、上司に差別されている”



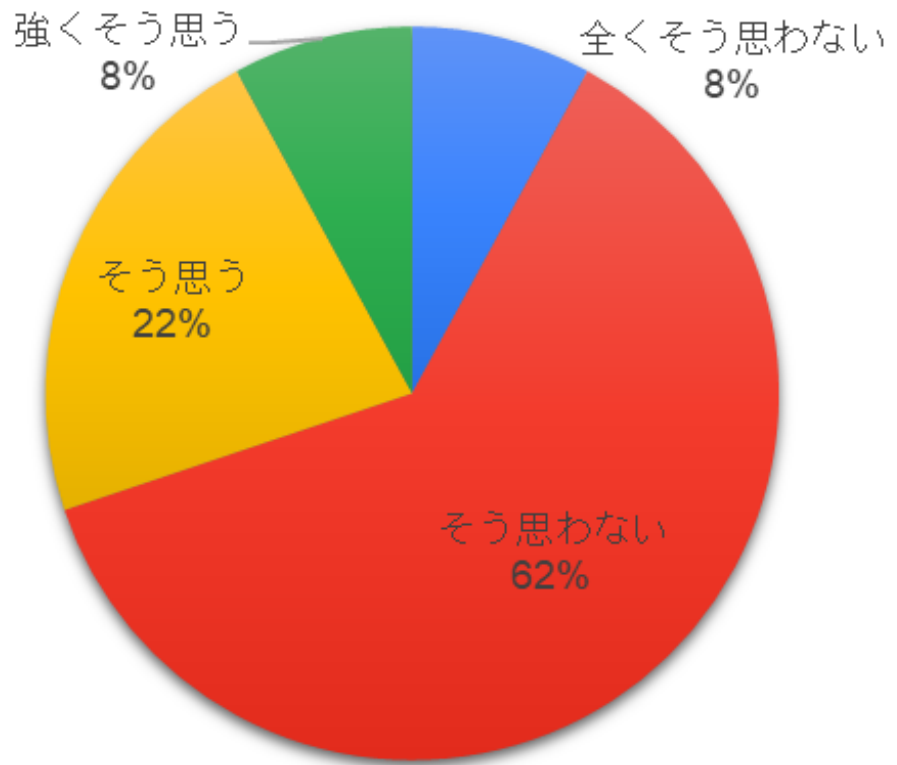
そう思う（差別されている）
と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	16.7(1/6)	55.6
31—45歳	10.0 (4/40)	31.3
46—60歳	11.8 (2/17)	21.2
60歳より上	N/A	20.0

33. “女性IVR医として、昇進するのは困難である”



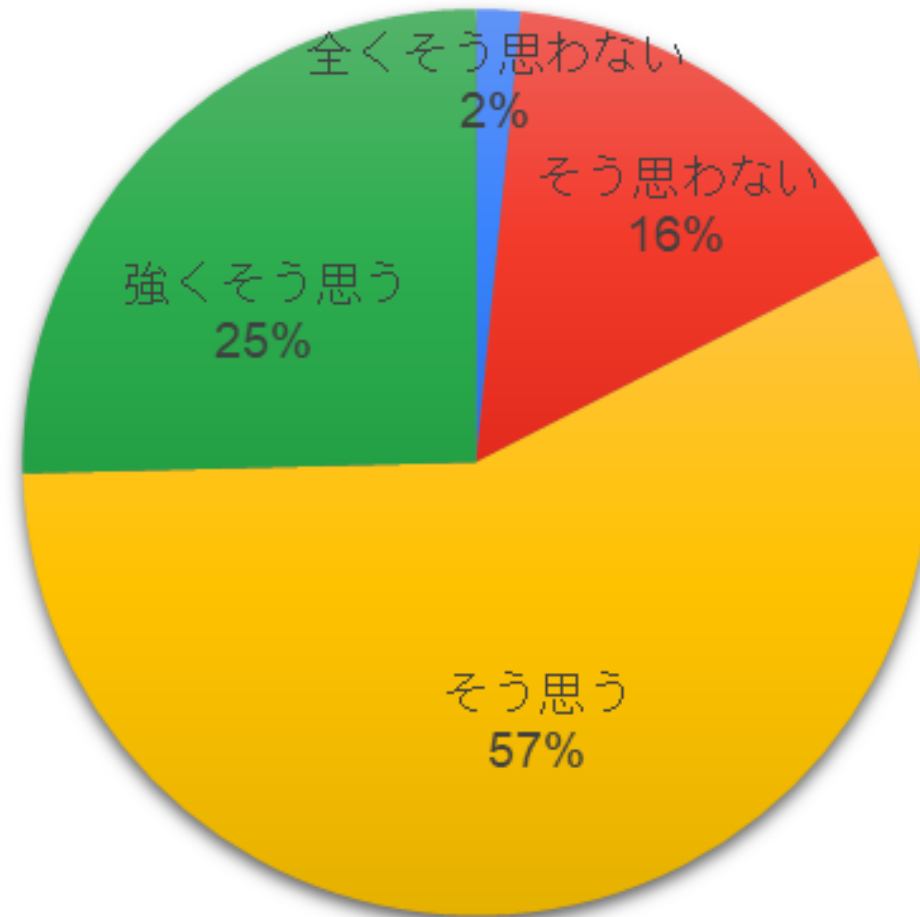
33. “女性IVR医として、昇進するのは困難である”



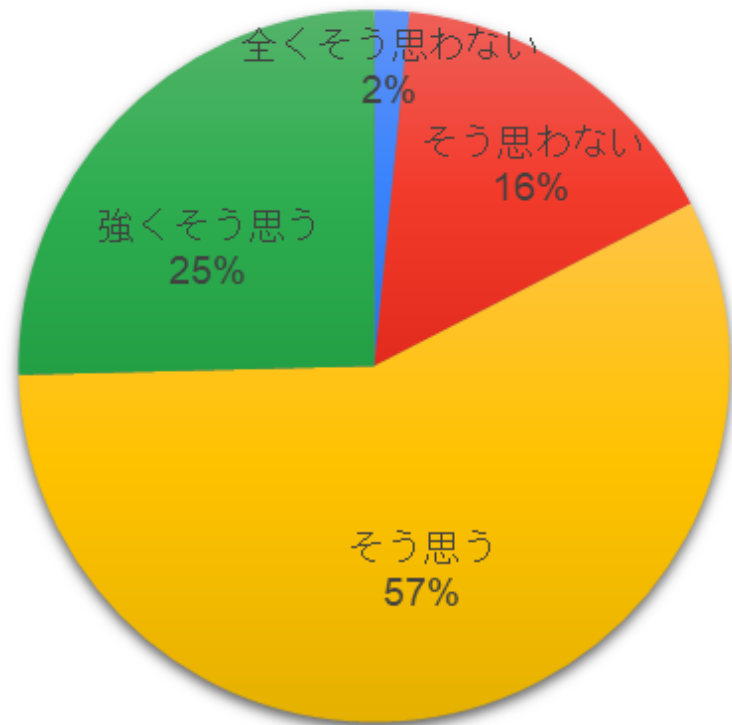
そう思う（昇進するのは困難である）と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	33.3 (2/6)	33.3
31－45歳	35.0 (14/40)	31.3
46－60歳	17.6 (3/17)	25.0
60歳より上	N/A	0

35. “女性IVR医は、男性IVR医に比べて、
仕事と家庭の両立が難しい”



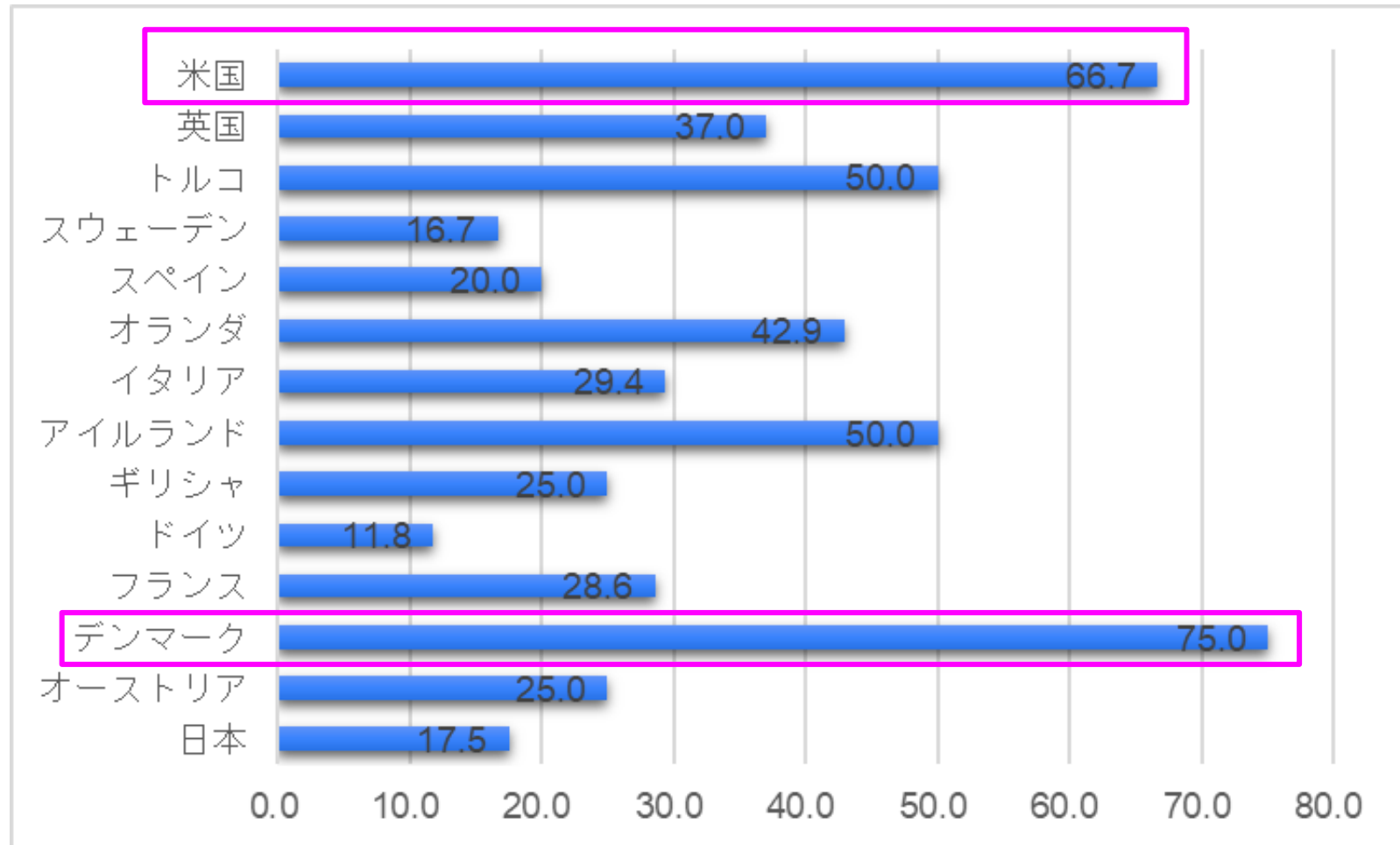
35. “女性IVR医は、男性IVR医に比べて、 仕事と家庭の両立が難しい”



そう思う（両立が難しい）
と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	66.7 (4/6)	88.9
31－45歳	85.0 (34/40)	72.3
46－60歳	82.4 (14/17)	55.8
60歳より上	N/A	60.0

35. “女性IVR医は、男性IVR医に比べて、
仕事と家庭の両立が難しい”
そう思わない（難しくない）と回答した割合(%)（国別）



36. “強くそう思う（両立が難しい）”理由 （自由記載のまとめ）

- オンコール対応困難や勤務時間の制限
- 女性の家庭内での責任（家事・育児）
- 妊娠・出産中のキャリアの中断

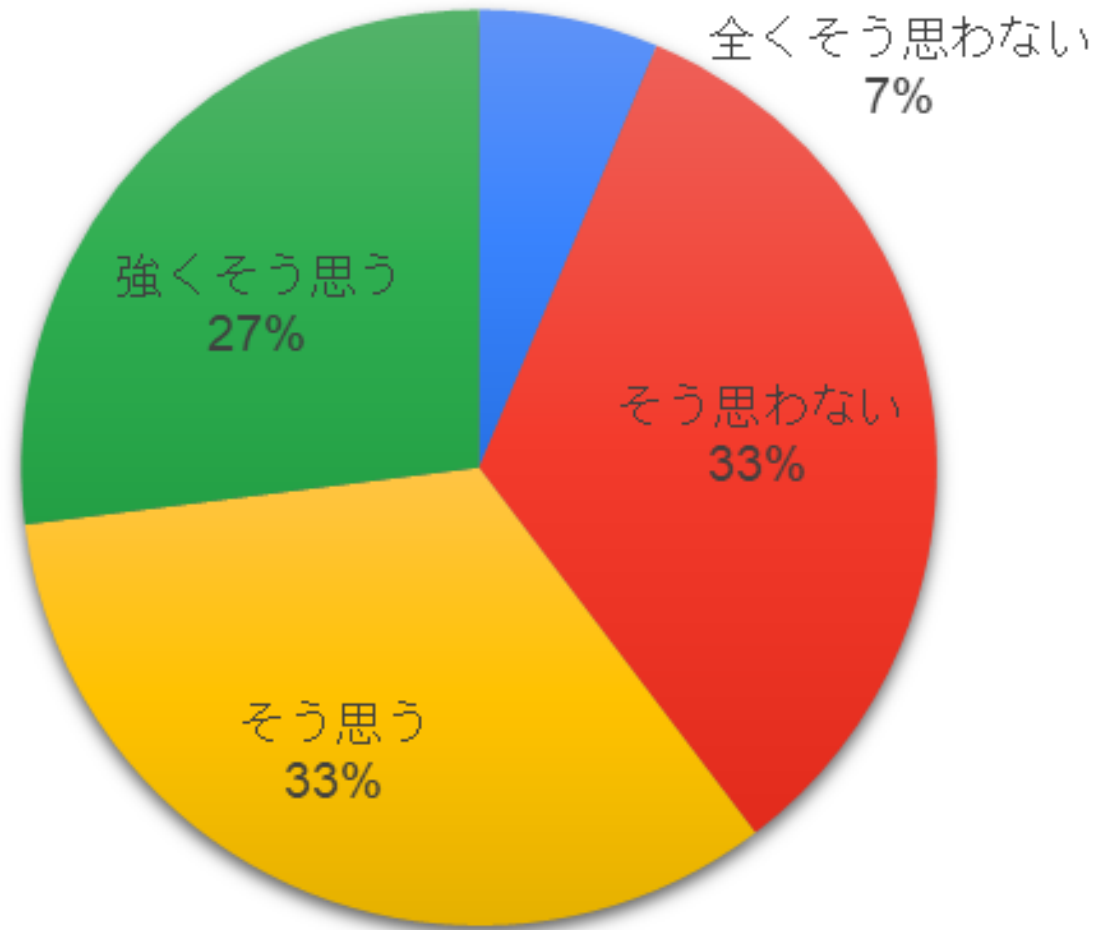
CIRSE

妊娠はキャリアを遅らせるため：50%

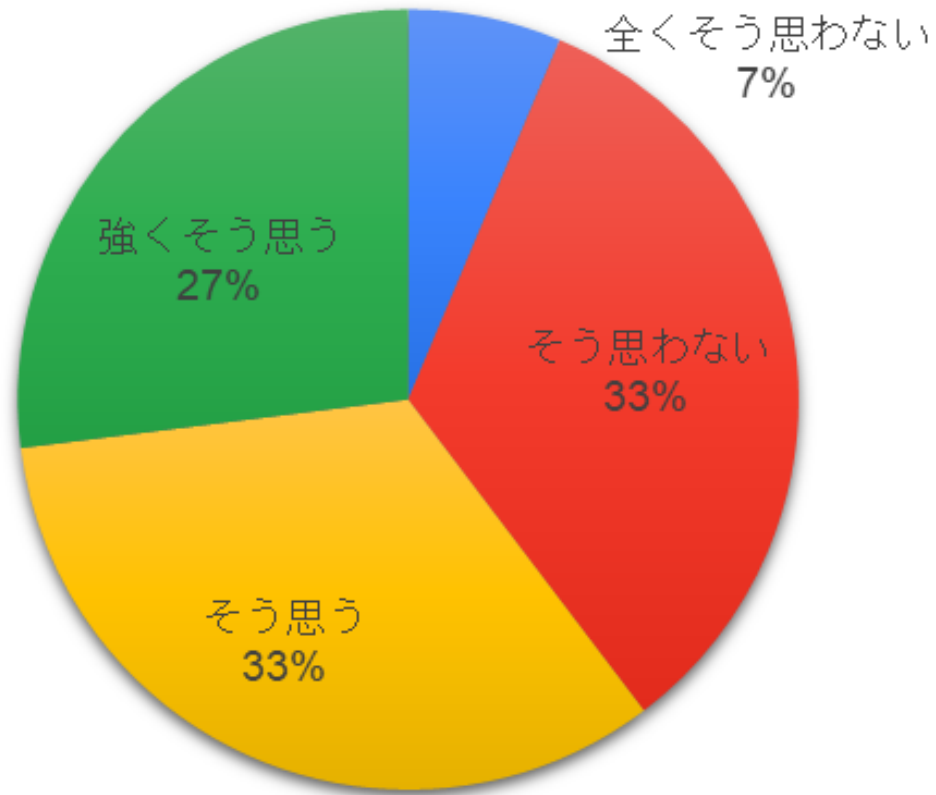
女性はより家庭内での責任があるから：44%

オンコール対応、勤務時間の問題：34%

37. “IVRは、男性中心の専門領域である”



37. “IVRは、男性中心の専門領域である”



そう思う（男性中心の専門領域）
と回答した割合(%)

	日本	CIRSE
30歳以下	66.7 (4/6)	100.0
31－45歳	55.0 (22/40)	79.5
46－60歳	70.5 (12/17)	73.1
60歳より上	N/A	20.0

37. “IVRは、男性中心の専門領域である” という理由
(自由記載のまとめ)

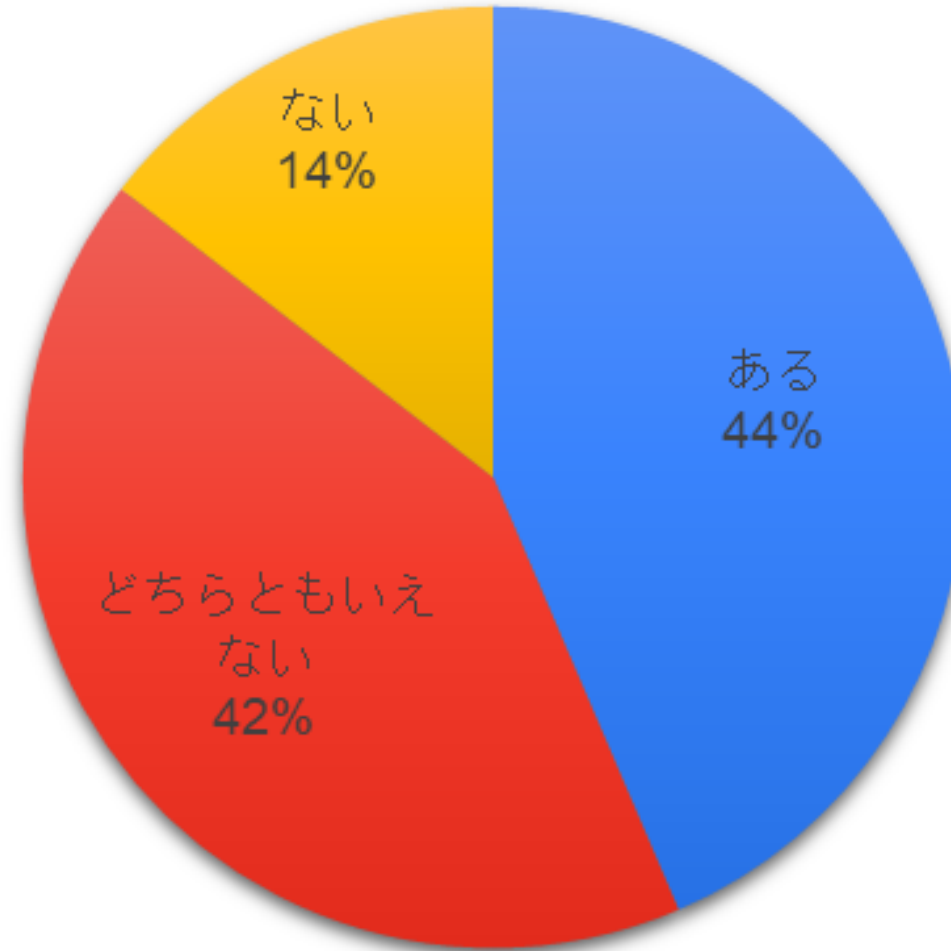
- 圧倒的に男性医師が多い（女性IVR医が少ない）。

CIRSE

圧倒的に男性医師が多い：46%

学会、大会、地位における男性優位：25%

38-1. 女性がIVRに携わることの有利な点
(男性と比較して、患者や医療の質という観点から)



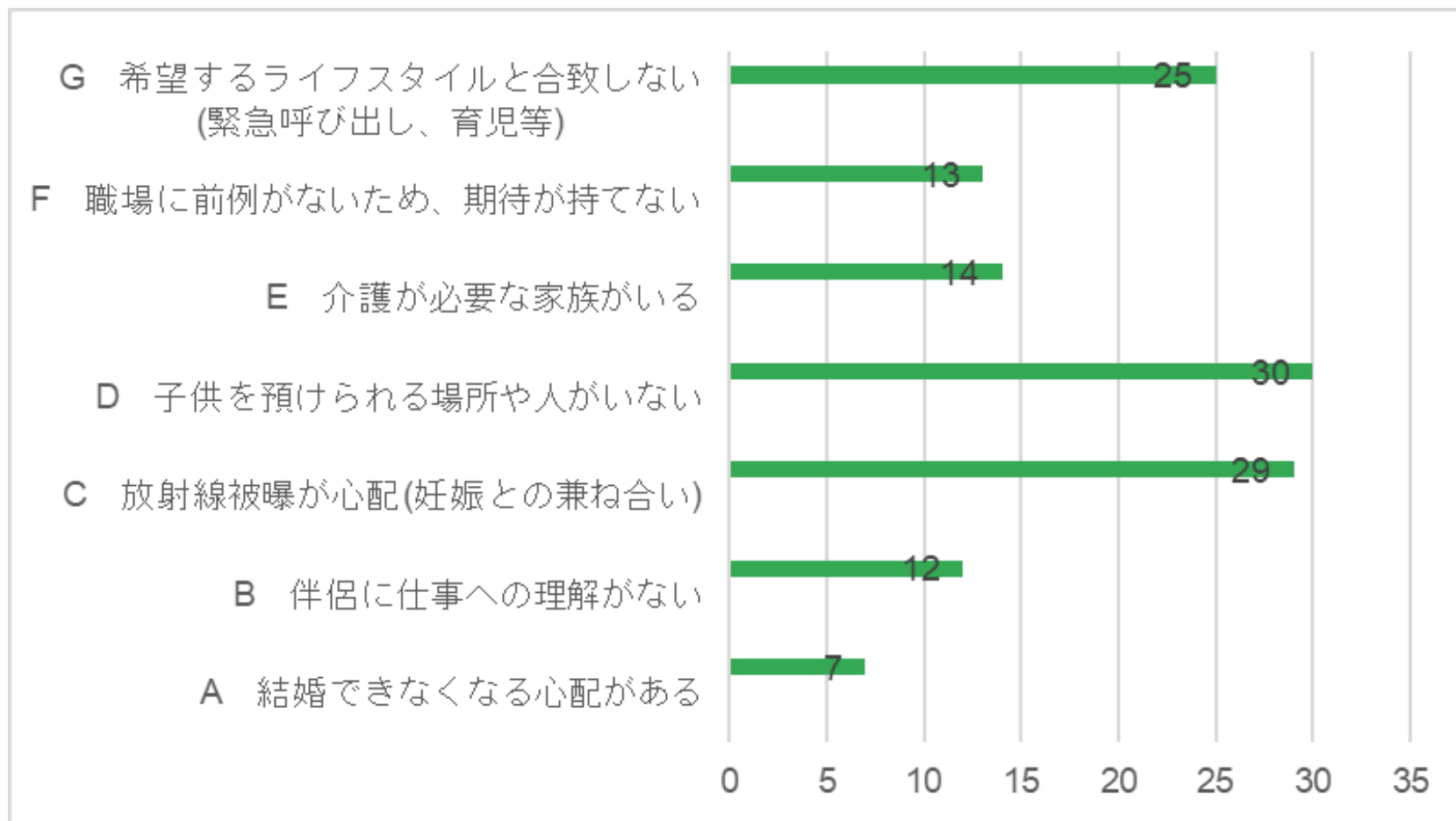
38-2. 「あり」の具体的記述（まとめ）

- 気づかひや目配り、患者に対してのソフトな対応。
- 産科婦人科領域や比較的若い女性の疾患に対するIVRでは、女性同士ということによって安心感を生む場合がある。
- 患者さんへの多様性の提示、スタッフの意見調整など。
- 女性医師を希望される患者がいるため。
- 女性患者に対し、女性の観点から接することができる。

38-2. 「ない」の具体的記述（まとめ）

- 女性、男性に関わらず、本人の資質によるところが大きい。
- 性別はそれほど関係ない。
- 性別を意識してIVRをしたことはない。
- 男女差を感じない。
- 妊娠・出産以前に性差で有利・不利を感じたことはない。

39. IVR医としてキャリアを積む際に障害となる
と思う項目（複数選択可）



39. IVR医としてキャリアを積む際に障害となってしまうこと（自由記載）

- 相談できるエキスパートが遠い。
- 「育児＝女性の仕事」の風潮。
- 育児中は、物理的に時間が足りない。緊急対応以外でも、病棟管理や研究など。
- 妊娠と研修との両立が難しい。
- 育児要領、手先の器用さ、向き不向き

7. 結果

7-4. IVR学会への要望

40. 女性の放射線科研修医にとってIVRをもっと魅力的な分野にするために、IVR学会ができること（自由記載のまとめ）

- 「女性の」ではなく「両性とも」であるようであればならない。
- 魅力的ロールモデル、さまざまなキャリアパスの紹介。
- 研修医とのワークショップ。
- IVRに関わりたいと熱望する研修医が性別を問わず、必要十分な研鑽を積めるような意識改革。
- IVR学会以外でのPR。
- IVR手技に対する放射線被ばくの安全性の啓蒙。
- 手技の紹介、楽しさ・面白さを伝える。
- 指導的立場にいる女性IVR医のコラム。若手IVR医のコラム。
- 意見交換・交流の場を多くする。

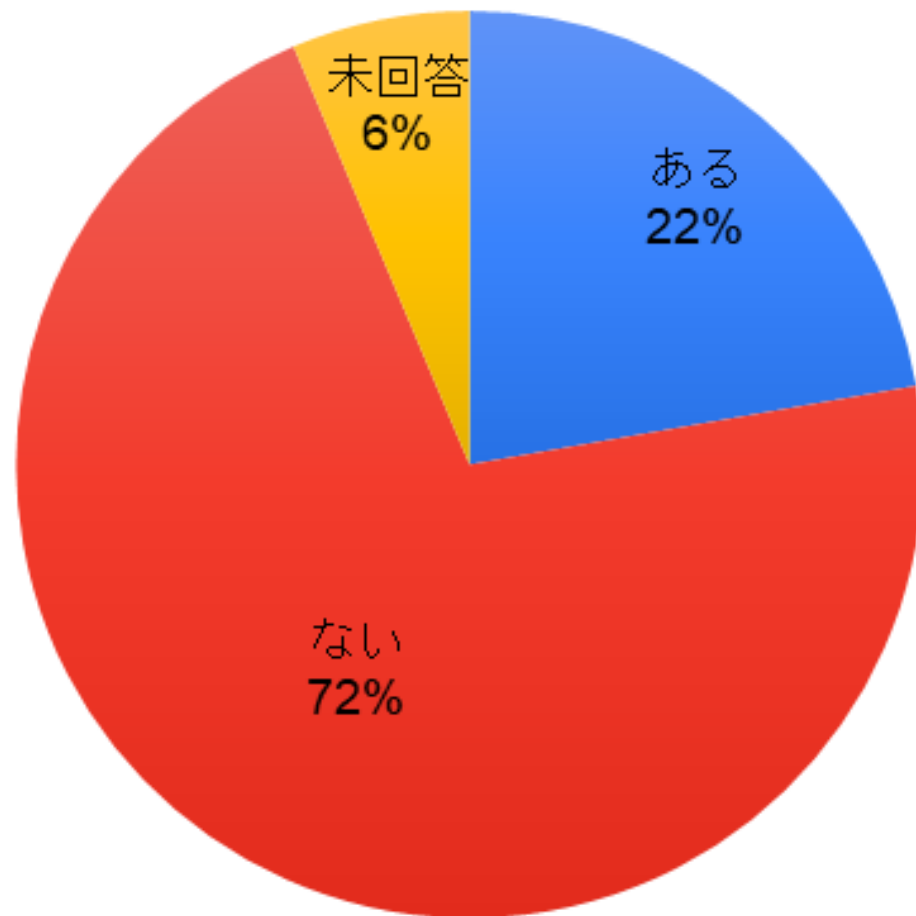
- 学会での託児の充実。
- 出産を希望する場合にタイミングを選ぶことが難しいことについて男女ともに理解を深めること。
- 専門医取得・更新条件において、妊娠、出産などで手技から離れた期間の考慮。
- 病院内での放射線科医の地位向上。
- 男性IVR医の意識改革。放射線科医（読影医）の理解を得る取り組み。
- 男性放射線科に対するダイバーシティの理解を深めるための教育。
- 地方でのセミナー開催。

41. 女性IVR医としてIVR学会に望むこと (自由記載のまとめ)

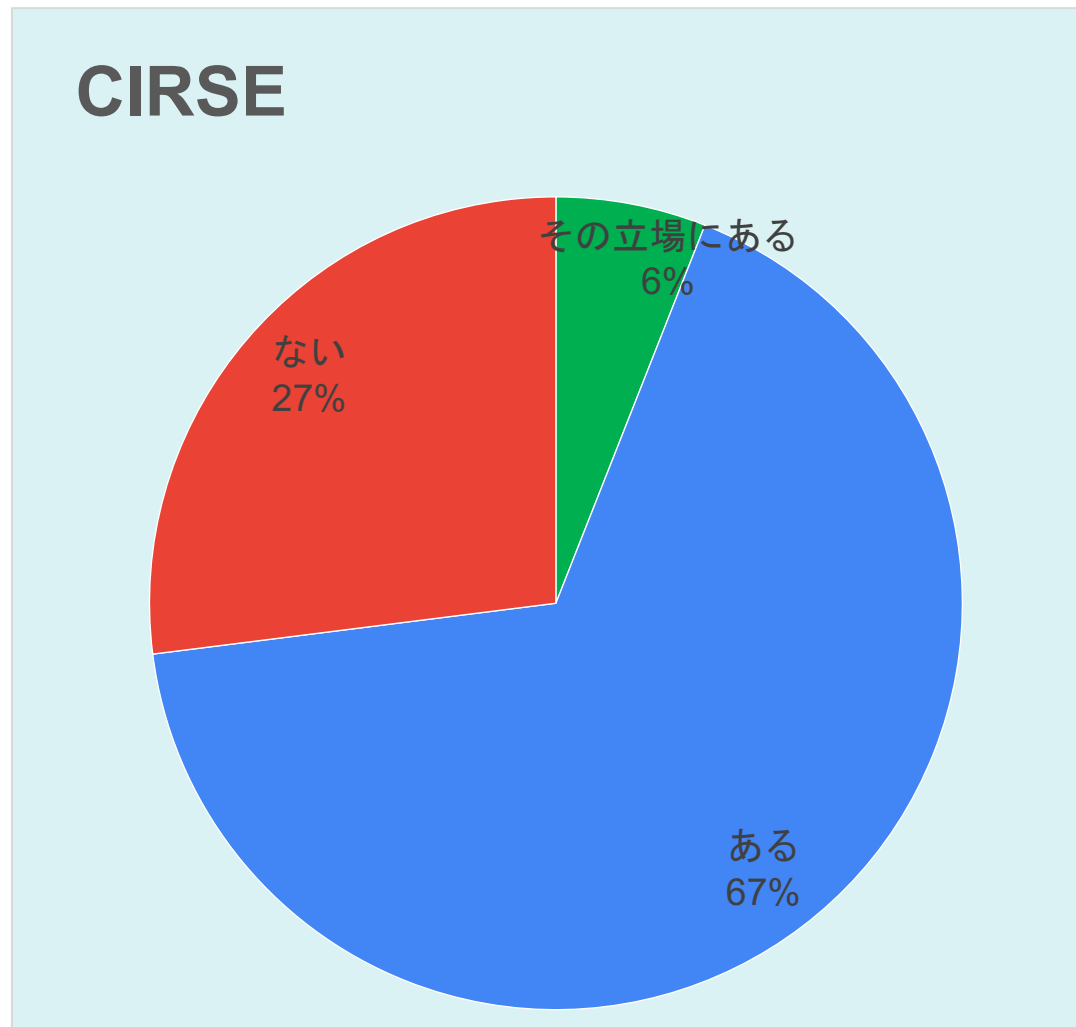
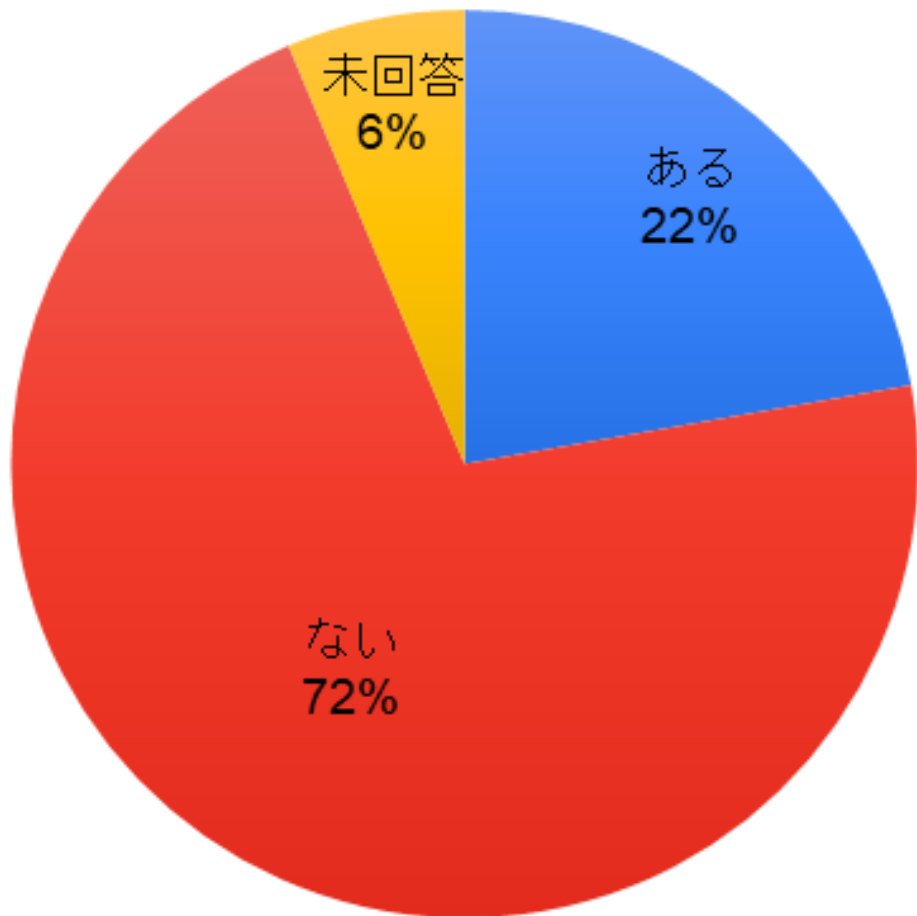
- 「女性」としてはない。女性IVR医ということだけをあまりとりあげないでほしい。
- 「女性」と冠をつけてよばれなくてもよくなるようにしてほしい。
- 男性逆差別となるような施策は不要。
- 期待していないので思いつかない。
- 学会の委員など女性IVR医が活躍できる場を作ってほしい。
- 学会として、女性IVR医の働きやすい環境をつくるよう病院に啓蒙してほしい。

- 研修機会の増加。キャリアパスなどの情報提供。
- 手技の内容や適応を探すための文献や本の紹介。Eラーニング教材など。
- 学会時の託児所や親子席の導入。
- 家庭の都合で学会に参加できない場合の動画配信（CIRSEのような）。
- 読影医の理解・評価を得られるような放射線科内での働きかけ。
- フルタイムで働けなくても充実した仕事ができるような環境の整備。
- 女性キャリアサポート、女性メンターやロールモデルの普及活動。
- 緊急IVRに対応できるような託児システムなど、良いモデルケースの紹介。

42. IVR学会で役職に就くことや、委員会、タスクフォースに参加することに興味があるか



42. IVR学会で役職に就くことや、委員会、タスクフォースに参加することに興味があるか



7. 結果（小括）

7-1. 回答者の背景因子

回答者の年齢分布：31-45歳 60%

勤務形態：常勤 約85%

管理職への従事：20%未満

子育て中：回答者の約1/3

子育て中に困っていること：

オンコール・子供が病気の時の対応

7. 結果（小括）

7-2. 女性IVR医の仕事とキャリア形成の現状

IVRに従事する時間：総勤務時間の1/4以下 約70%

IVRのオンコール対応：回答者の2/3が対応あり

昨年度の有給休暇：約1/3が0-4日

メンター or ロールモデルの存在：約1/2（男性9割）

IVR業務へのやりがい：約80%が感じている

IVRを続けたいか：約70%が続けたい

セクシャルハラスメント・パワーハラスメント：

約15%にあり

7. 結果（小括）

7-3. 女性IVR医の障壁とアドバンテージ

IVRの魅力：約90%が魅力あり

IVR分野でのキャリア形成：約60%が女性は不利

理由：男性優遇、出産・育児

女性IVR医としての昇進：約70%が困難と思わない

仕事と家庭の両立：約80%が男性よりも困難と思う

理由：オンコール対応困難、
出産・育児中のキャリア中断

キャリアを積む際の障害：

1. 子供の預け先がない
2. 放射線被ばくが心配
3. 希望するライフスタイルと合致しない

7. 結果（小括）

7-4. IVR学会への要望

ロールモデル、さまざまなキャリアパスの紹介
研修医とのワークショップの開催

放射線被ばくの安全性の啓蒙

学会時の託児施設の充実

学会に参加できない場合の動画配信など

フルタイムでなくても充実した仕事ができる環境整備

8. まとめ

- IVR学会ダイバーシティWGが行った女性IVR医へのアンケート調査結果を報告した。
- IVRという仕事に多くは魅力とやりがいを感じているが、家庭との両立や男性中心の領域であることに問題を抱えている。
- アンケート回収率は20%程度で、今回の結果が女性IVR医全体の現状を反映しているとは限らないが、IVR医増加のため、女性も男性も働きやすい職場にするために、今回の調査結果を足掛かりとして検討していきたい。

アンケートへのご協力、
ありがとうございました